
鏡映しの決闘者

forochon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡映しの決闘者

【Nコード】

N7338Y

【作者名】

f o r r o c h o n

【あらすじ】

とある世界に生きる1人の少女、神代水面。

「No.」を巡る戦いに巻き込まれつつも、マイペースにのんびりと、

それなりに頑張って生きていく物語……になったらいいな。

Number ? : 注意書き (2011/12/16更新)

以下、読む前の注意書きです。 ←

- ・この小説は「遊戯王ZEXAL」の二次小説です。
- ・駄文だったらすみません。誤字脱字があつたらもつとすみません。
- ・この作品は、シリアス9% マトモ47% ネタ34% メタ12% (当社比) で構成されています。
- ・オリキャラ、オリ力、オリ設定の大盤振る舞い(?)。苦手な人はご注意を。
- ・アニメZEXALがまだあまり進んでないので、見切り発車な部分があります。
- ・過度な批判とかはおやめ下さるようお願いします。
- ・作者自身が文を書くのに慣れてないので、不定期更新になると思われます。
- ・残酷描写タグは保険でしたが、闇ゲーで傷ついたりする可能性膨大。ご注意を。
- ・時々、過去の話をちょっと改変したりするかも。言い回しを変えるとか。

・せっかくのZEXALだし、シンクロ召喚は使わない。……たぶん。ウラ。

・主人公達は基本、水面下で動いています。アニメを見てないと分かんない部分とかあるかも。

・Q・原作知識とはどのような効果だ？ いつ発動する？
A・原作知識八無シデスヨ、カイトサマ！

以上の事をふまえた上で、用法・容量を守って正しくお読みください。

大丈夫だ、問題ないと云う猛者はアアクセルシンクロオオ！ の速度でお進み下さい。

一番いい小説を頼む方は、ブラウザの戻るをグォルエンダア！！！！
！！ して下さい。

Number 1：人はそれを、導入部分と呼んだ（前書き）

「う、うわああああ！」

デュエルの決着がつき、倒れた男に右手をかざす少女。
すると男から光があふれ、かざした手に集まってくる。

「ふう……初勝利、かな」

そして少女の右手に納まっている、黒く光る1枚のカード。
そのカードには、「17」の文字が刻まれていた。

Number 1：人はそれを、導入部分と呼んだ

「ただいまー」

扉を開け、部屋へあがる。

「お帰り、水面。今日はどうだった？」

声をかけてきたのは、デュエルモンスターの精霊のヴィオ。髪と目は紫色で、何故かいつも（本人から見ても）左目を閉じてる。小さい頃からの付き合いで、もはや家族みたいな存在。因みに、ヴィオは擬人化とかいうのが使える。それで今は人型になっている。

え、なんの精霊かって？ ……

「ヴィオってなんの精霊だったっけ……？」

「どうしたの突然？前にも言ったハズだけど」

「いや、まだ第一話だからさ、説明したほうがいいと思ったんだけど」

説明って大事だね？

「ヴィオは自爆神の精霊でしょ。あと、メタ発言は控えなさい」

「紫苑、漢字間違ってる。ボクは好きで自壊したりしない」

「おま、機皇デッキに謝罪してこい」

話に入ってきたのは、九いちじく紫苑しおん。短めの黒髪に黒い目。典型的な日本人タイプ。

双子の兄妹なんだけど、あいにくもう一人は今この場にはいない。因みに僕よりも年上。大人の女性ってやつか……。

「自縛神じゃなければえっと、自縛神だったかしら」

「でもヴィオはMじゃなくてSっぽい気がする」

「……わざと？ それとも天然ボケなの？」

ああ、思いだした。ヴィオは地縛神の精霊だ。

一回決闘で見たことあるけど、瞬殺されたせいでよく覚えてない。僕のデッキに入ってる訳じゃないし。

「それで水面、今日はどうだったの？」

それからさっさと自己紹介しなよ、読者様が困惑してるよ」

「だからやめなさいって。私一人じゃ突っ込みきれないわ」

「自縛神を持ち出したお前が言うな」

僕は神代かみしろ水面みなも。紺色で長い髪に、目は黒っぽい青。16歳……あれ、15だっけ？ いや待って、17だった気も……

自分で言うのもあれだけど、僕はいわゆる転生者……だと思っ。

「思っ」っていうのは、確証が無いから。

よくある神様にも会わなかったし（ある意味目の前に居るけど）、

トラックに轢かれてくっついていう訳でもなかったんだよね。
自分が死んだのかも覚えてないし。

因みに今は女だけど、前世は男だった。

そのせいで、未だに「僕」って1人称が抜けない……

「で、水面。今日は結局どうだったの？」

「ぬっふっふ。聞いて驚け、見て笑え。

なんと初の収穫だ！」

「\すげえ／」

鞆から1枚のカードを取り出し、ヴィオに渡す。

「どれどれ、《No.17 リバイス・ドラゴン》……これが本物の……」

かなり苦戦したな。憑りつかれると運が良くなったりするのかな？

「他に気になる話とかはあった？」

「えーと、ナンバーズ・ハンター、だっけ？　そういう人がいるとかいないとか。

聞く限りじゃ、僕達とは違う人らしいよ」

「ナンバーズ・ハンター……ねえ」

僕達とはある事情で、「^{ナンバーズ}No.」と名のついたカードを探してる。
ヴィオからの頼みだから、詳しい理由は知らないけど。

「そういえばノエルは？ そろそろ帰ってくるって言ってなかったっけ」

「もう暫く帰ってきそうにないわ。恩人の所に寄り道するとも言っていたし。」

「そういえば、今日は新しいパックが出たんでしょう？ いいカードは当たったかしら？」

あ、そうだ。

「そうそう、欲しかったカードが当たってさ。調整したいから……」

一旦言葉を切り、2人に指を突きつける。

「おい、デュエルし」「蟹乙」台詞の途中で割り込まないd「ワンパターンすぎるよ」「くそ……ッ！」

ヴィオひつでえ。お前、それでもデュエリストか！？

「とりあえずボクが相手するよ。デッキ持ってくるから待ってて……あと水面」

ん？

「リアリストだ」

地の文を読まれた……だと！？

「水面、諦めなさい。ネタでヴィオに勝とうなんて無茶よ……」

「ヴィオ、準備はいい？」

「Of course！」

「それじゃ、始めるわよ」

紫苑に審判を頼んで、距離をとる。

「デュエルディスク決闘盤セット、D・ゲイザーセット！」

『ARヴィジョン、リンク完了』

「「デュエル！」」

水面 LP4000

VS

ヴィオ LP4000

「僕のターンから、ドロー！
モンスターを裏守備で召喚。カードも1枚伏せて、ターン終了」

まずは様子見。急いては事を仕損じる。

水面

LP / 4000

手札 / 4

モンスター / 裏側守備表示1体

魔法・罠 / 伏せカード1枚

「様子見つてとこかな？ …… ボクのターン。

とりあえず、《暗黒界の取引》を発動！ お互いに1枚ドローして、その後1枚捨てる」

《暗黒界の取引》
あんこくかい とりひき

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

いきなり手札交換か…… なんか嫌な予感。

「そして手札から、《ビッグ・ジョーズ》を召喚！」

名前通りの、巨大な鯨のモンスターが現れた。

《ビッグ・ジョーズ》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 魚族 / 攻1800 / 守 300

このカードは攻撃した場合、

バトルフェイズ終了時にゲームから除外される。

ビッグ・ジョーズ

4 ATK / 1800

「バトルフェイズ、ビッグ・ジョーズでモンスターを攻撃！ ビッグ・マウス！」

ビッグ・ジョーズが突進してくる。
攻撃力1800か……でも残念。

「《リチュア・エリアル》のリバース効果発動！
デッキから、リチュアと名のついたモンスター1体を手札に加える！ 対象は《シャドウ・リチュア》！」

エリアルの守備力は同じ1800。戦闘破壊は発生しない。

《リチュア・エリアル》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 魔法使い族 / 攻1000 / 守1800

リバース：自分のデッキから

「リチュア」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

リチュア・エリアル

4 DEF / 1800

『久しぶり、水面』

「（あ、エリアル！ 久しぶり！ 元気だった？）」

『大忙しだし、疲れてはいる。なんだっけ、ヴェルズ？ とかいふ奴等が攻めてくるし。しかも新しい儀式の計算式を作文用紙5枚だよ？』

「（うわ……ノエリアさんマジパネエ）」

今（小声で）話してるのはエリアル。ヴィオとかと同じ精霊だけど、普段は精霊界にいる。そしてたまに出てくる。

あ、精霊界っていうのは読んで字のごとく、精霊がいる世界ね。

「倒せなかったけど……まあいいや。」

バトルフェイズ終了時、ビッグ・ジョーズは自身の効果で除外される。そしてこの瞬間、

墓地から《ウイングトータス》の効果を発動し、場に特殊召喚！さらに魚・海竜・水族が場に出たため、手札から《シャーク・サツカー》も特殊召喚する！」

《ウイングトータス》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 水族 / 攻1500 / 守1400

自分フィールド上に表側表示で存在する

魚族・海竜族・水族モンスターがゲームから除外された時、

このカードを手札または自分の墓地から特殊召喚する事ができる。

《シャーク・サッカー》

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魚族 / 攻 2000 / 守 1000

自分フィールド上に魚族・海竜族・水族モンスターが召喚・特殊召喚された時、

このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードはシンクロ素材とする事はできない。

ウイングトータス

3 ATK / 1500

シャーク・サッカー

3 DEF / 1000

「うわ……一気に2体が……」

ウイングトータス……暗黒界の取引で捨ててたのか。しかも両方レベル3。

「メインフェイズ2、ボクはレベル3のウイングトータスとシャーク・サッカーをオーバーレイ！」

2体のモンスターで、オーバーレイ・ネットワークを構築！」

2体が赤い光の輪に飲み込まれていく。

「エクシース召喚！ 逆巻け、《虚空海竜リヴァイエール》！」

そして光の中から、青緑色の海竜が姿を現した。
その周りには、2つの光の球が回りながら浮いている。

あ、一応説明しておくと、
エクシーズ召喚っていうのは同レベルのモンスター複数体を素材に
して特殊召喚する方法だ。
そして素材になったモンスターは墓地へは行かず、オーバーレイ・
ユニットとなってサポートに使われる。

《虚空海竜リヴァイエール》

エクシーズ・効果モンスター

星3 / 風属性 / 水族 / 攻1800 / 守1600

レベル3モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事で、
ゲームから除外されている自分または相手の
レベル4以下のモンスター1体を選択して自分フィールド上に特殊
召喚する。

虚空海竜リヴァイエール

3 ATK / 1800 OR・U / 2

「ヴィオ、そんなに飛ばして大丈夫？」

「大丈夫だ、問題ない！ リヴァイエールの効果発動！
オーバーレイ・ユニットを1つ使い、除外されたモンスターを特
殊召喚する！ 出でよ、ビッグ・ジョーズ！」

虚空海竜リヴァイエール

残りOR・U / 1

リヴァイエルが浮いていたユニットの1つを食らい、大波を巻き起こす。

そして再び現れたビッグ・ジョーズ。お疲れ様です。

ビッグ・ジョーズ

3 ATK / 1800

「カードを2枚伏せて、ターンエンド！」

ヴィオ

LP / 4000

手札 / 1

モンスター / 虚空海竜リヴァイエル (ATK / 1800)

ビッグ・ジョーズ (ATK / 1800)

魔法・罠 / 伏せカード2枚

いきなりエクシーズが出てくるとは思わなかったけど、なんとかかなる……かな。

さて、反撃の準備だ！

Number 1:人はそれを、導入部分と呼んだ(後書き)

後編に続く!

……何故ブローグに後編があるんだorz

Number 2：続・人はそれを、導入部分と呼んだ（前書き）

書いた！プロローグ完ッ！

Number 2：続・人はそれを、導入部分と呼んだ

「僕のターン、ドロー！」

さて、この手札で挽回しなくちゃ。

まずは……ん？

「ただいま……つと、デュエル中だったのか。
紫苑、今どっちが優勢だ？」

「あ、ダルク。お帰り」

今ちようど帰ってきたのは、《闇霊使いダルク》の精霊のダルク……
名前はそのまんまだけど気にしない。

因みにヴィオと同じで、誰かのデッキに宿ってる訳じゃなく、自分のデッキを持ってる。

「お帰り、ダルク……さてと。僕は手札の《シャドウ・リチュア》の
効果発動！

このカードを手札から捨てて、デッキからリチュアと名のついた
儀式魔法を1枚手札に加える！」

《シャドウ・リチュア》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 海竜族 / 攻1200 / 守1000

水属性の儀式モンスターを特殊召喚する場合、

このカード1枚で儀式召喚のためのリリースとして使用する事がで

きる。

また、手札からこのカードを捨てる事で、自分のデッキから「リチュア」と名のついた儀式魔法カード1枚を手札に加える。

「僕はこの効果で《リチュアの儀水鏡》を手札へ加える。

次に、《リチュア・ビースト》を通常召喚……する前に速攻魔法、《サイクロン》発動！ 右の伏せカードを破壊！」

「おつと残念、チェーンして《八汰鳥の骸》発動！ カードを1枚ドローする！」

《サイクロン》

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

ヤタガラス むくろ
《八汰鳥の骸》

通常罠

次の効果から1つを選択して発動する。

- 自分のデッキからカードを1枚ドローする。
 - 相手フィールド上にスピリットモンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。
- 自分のデッキからカードを2枚ドローする。

むう……ブラフか。まあ大丈夫かな。

「それじゃリチュア・ビーストを召喚、効果を発動！ このカード

が召喚された時、

墓地からレベル4以下のリチュアを特殊召喚できる！ この効果で、《リチュア・アビス》を復活させる！」

半魚人？ みたいなモンスターが現れ、さらに鮫の頭を持つモンスターが特殊召喚される。

《リチュア・ビースト》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 獣族 / 攻1500 / 守1300

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在するレベル4以下の「リチュア」と名のついたモンスター1体を選択して表側守備表示で特殊召喚することができる。

《リチュア・アビス》

効果モンスター

星2 / 水属性 / 魚族 / 攻800 / 守500

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、

自分のデッキから「リチュア・アビス」以外の守備力1000以下の「リチュア」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

リチュア・ビースト

4 ATK / 1500

リチュア・アビス

2 DEF / 500

「アビス？ 取引で捨ててたのか……」

「さらに、アビスの特殊召喚時の効果も発動！

デッキから守備力1000以下のリチュア……《イビリチュア・ガストクラーケ》を手札へ！」

回る回る。リチュアはサーチやサルベージに特化したシリーズだから、凄く便利。

「……それで真六武衆とか、そういうデッキを俗に「ソリティア（ずっと俺のターン！）」って呼ぶらしいわ」

「成程、「ワンサイドゲーム（覚悟しろよ、この蟲野郎！）」というやつか。言い得て妙だな」

なにか話してるけど気にしない。……いや待て、審判しろよ。

「まあいいか、行くよ！ 儀式魔法、リチュアの儀水鏡を発動！

手札・フィールドからモンスターをリリースして、リチュアの儀式モンスターを特殊召喚する！」

《リチュアの儀水鏡》

儀式魔法

「リチュア」と名のついた儀式モンスターの降臨に必要。

手札・自分フィールド上から、儀式召喚するモンスターと

同じレベルになるようにモンスターをリリースしなければならない。
また、墓地に存在するこのカードをデッキに戻す事で、

自分の墓地に存在する「リチュア」と名のついた儀式モンスター1

体を選択して手札に戻す。

「フィールドにいるレベル2のアビスと、手札のレベル4の《リチュア・エミリア》を”生贄”に――

――降臨せよ！ レベル6、イビリチュア・ガストクラーケ！」

水流が巻き起こり、タコのような外見のモンスターが現れる。このデッキの主力の1体だ。

儀式召喚の事も一応説明しておくね。

特定の儀式魔法、それと対応した儀式モンスターを手札に揃え、召喚するモンスターと同じレベルになるようにモンスターをリリースして出す。これが儀式召喚。

《イビリチュア・ガストクラーケ》

儀式・効果モンスター

星6 / 水属性 / 水族 / 攻2400 / 守1000

「リチュア」と名のついた儀式魔法カードにより降臨。

このカードが儀式召喚に成功した時、

相手の手札をランダムに2枚まで確認し、

その中から1枚を選択して持ち主のデッキに戻す。

イビリチュア・ガストクラーケ

6 ATK / 2400

……この前の大会で出したら、「リチュアの帝キタ！ これで勝つ

る！」とか言われてた。まあ稀によくある。

「ガストクラーケの効果発動！

儀式召喚に成功した時、相手の手札を2枚まで確認して、その内1枚をデッキに戻す！」

「ランダムに2枚……僕の手札は2枚しか無いけど」

そう言って手札を公開するヴィオ。《浮上》に《ハリマンボウ》か。

《浮上》

通常魔法

自分の墓地に存在するレベル3以下の

魚族・海竜族・水族モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚する。

《ハリマンボウ》

効果モンスター

星3 / 水属性 / 魚族 / 攻1500 / 守 100

このカードが墓地へ送られた時、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択した相手モンスターの攻撃力は500ポイントダウンする。

ハリマンボウは……墓地に送ると困るな。

「ハリマンボウを戻すよ。そして罠カード、《マインドクラッシュ》発動！」

「鬼かこいつ!？」

《マインドクラッシュ》

通常罠（準制限カード）

カード名を1つ宣言して発動する。

宣言したカードが相手の手札にある場合、相手はそのカードを全て墓地へ捨てる。

宣言したカードが相手の手札に無い場合、自分は手札をランダムに1枚捨てる。

なにも考えず使えば、効率の悪い手札破壊。

でも、たった今手札を覗いた僕が外す訳がないね。

「宣言するのは浮上！ 墓地に送ってもらっよ」

「水面、そのカード持ってたんじゃない……」

「今日のパックに再録されてたよ。それじゃ、レベル4のリチュア・ビーストと《リチュア・エリアル》をオーバーレイ！」

『後は頑張ってねー』

了解、エリアル。

今日の僕は結構本気だよ！

「2体のモンスターで、オーバーレイ・ネットワークを構築！
カミ アンチマター 火水の合成禁術により燃え盛れ！ エクシーズ召喚、《ラヴアル
バル・チェイン》！」

溶岩の体を持つ海竜が現れる。 …… アグナ。トル？

《ラヴアルバル・チェイン》

エクシーズ・効果モンスター

星4 / 炎属性 / 海竜族 / 攻1800 / 守1000

レベル4 モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除き、

以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 自分のデッキからカードを1枚選択して墓地へ送る。
- 自分のデッキからモンスター1体を選択してデッキの一番上に置く。

ラヴアルバル・チェイン

4 ATK / 1800 OR・U / 2

「チェインの効果！ ユニットを1つ取り除く事で、2つの効果から1つを選んで発動できる！」

僕は1つ目の効果で、デッキからリチュアの儀水鏡を墓地に落とす」

ラヴアルバル・チェイン

残りOR・U / 1

「バトルフェイズ！ ガストクラーケでリヴァイエルを攻撃する

！ ミラージユ・ストローミング！」

ガストクラーケが渦潮を放って、リヴァイエルを攻撃する。が、

「畏カード、《ポセイドン・ウェーブ》！ 相手モンスターの攻撃を無効にし、

さらに自分の魚・海竜・水族モンスターの数だけ、相手に800の効果ダメージを与える。

今いるのはリヴァイエルとビッグジョーズの2体。1600ダメージを受けてもらうよ！」

《ポセイドン・ウェーブ》

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

自分フィールド上に魚族・海竜族・水族モンスターが表側表示で存在する場合、

その数×800ポイントを相手ライフに与える。

ガストクラーケの渦潮を飲み込む程の、さらに巨大な津波が帰ってきた。

水面

残りLP/2400

「なら、チェインでリヴァイエルに攻撃宣言だ！」

「え……相殺する気!?!」

「んな事しないよ！ ダメージストップ時、手札から速攻魔法発動！ 《禁じられた聖杯》！」

《禁じられた聖杯》
（きんせいはい）

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は400ポイントアップし、効果は無効化される。

ラヴァルバル・チェイン

ATK / 1800 ↓ 2200

「攻撃続行！ カーディナル・アンデュレーション！」

「……ッ！」

炎の渦が、ヴィオに襲い掛かる。結構熱そうだ。

ヴィオ

残りLP / 3600

「僕はこれでターン終了！」

水面

LP / 2400

手札／0

モンスター／イビリチュア・ガストクラーケ（ATK／2400）

ラヴァルバル・チェイン（ATK／1800）

魔法・罾／無し

ビッグ・ジョーズを残しちゃったな。何かくるか？

「ボクのターン、ドロー！」

マイクラは痛かったけど……水面、ボクに新たなカードを与えたのは失敗だったね。

まず、手札から《キラー・ラブカ》を召喚」

《キラー・ラブカ》

効果モンスター

星3／水属性／魚族／攻 700／守1500

自分フィールド上に表側表示で存在する

魚族・海竜族・水族モンスターが攻撃対象に選択された時、墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

攻撃モンスター1体の攻撃を無効にし、

その攻撃力を次の自分のエンドフェイズ時まで500ポイントダウンさせる。

「キラー・ラブカ」の効果は1ターンに1度しか使用できない。

キラー・ラブカ

3 ATK／ 700

「レベル3が2体……でもこの状況で出すエクシーズ？」

何が……来る？

「レベル3のビッグ・ジョーズとキラ・ラブカをオーバーレイ。2体のモンスターで、オーバーレイ・ネットワークを構築！」

普通とは違う、銀河のような光の渦。そしてそこに飲み込まれていくモンスター。

……ちよつと待って、まさかこれ……！

「蒼き海竜よ、今此処に雄叫びを上げよ！ エクシーズ召喚！」

荒れ狂え、《No.17 リバース・ドラゴン》！

巨大な目玉を模したオブジェが展開されていく。暗い青色をした胴体に、透き通るような水色のヒレ。角に刻まれている「17」の数字。

咆哮を上げ、ナンバーズが姿を現した。カードを与えたってこいつの事かよ！

ナンバーズ

《No.17 リバース・ドラゴン》

エクシーズ・効果モンスター

星3 / 水属性 / ドラゴン族 / 攻2000 / 守

0

レベル3モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事で、このカードの攻撃力を500ポイントアップする。

このカードのエクシーズ素材が無い場合、
このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事はできない。

No・17 リバイス・ドラゴン

3 ATK/2000 OR・U/2

「……ッ!？」

突然ヴィオがふらつき、左手を抑えた。息も荒立っている。……まさか。

「ヴィオ、ついに厨二病に目覚めも「違うから安心して」……なんだつまらん」

ヴィオの左手をよく見ると、「17」の刻印が浮かんでいる。そつえば、元々持ってた相手もこんなのが浮かんでた気がする。

「こりや凄いな……気を強く持たなきゃ乗っ取られそうだよ。
さて、リバイス・ドラゴンの効果を発動! オーバーレイ・ユニットを1つ取り除く事で、
攻撃力を500ポイントアップする!」

リバイス・ドラゴンがユニットを喰らい、淡い光を纏う。

No・17 リバイス・ドラゴン

残りOR・U/1 ATK/2000 ↓2500

超えてきたか……しかも永続効果だったつけ。

「バトルフェイズ、リバイス・ドラゴンでガストクラーケを攻撃！
放て、バイス・ストリーム！」

水色の光線を受け、ガストクラーケが破壊される。ごめんね。

水面

残りLP / 2300

「ターンエンド！」

ヴィオ

LP / 3600

手札 / 1

モンスター / No. 17 リバイス・ドラゴン (ATK / 2500)
魔法・罠 / 無し

厳しいな……なんとか盛り返さなきゃ。

「僕のターン……ドロー！」

チェインの効果！ 1つ目の効果で、《イビリチュア・ソウル
ーガ》を墓地へ」

ラヴァルバル・チェイン

残りOR・U / 0

「リチュアの儀式水鏡の効果。墓地のこのカードをデッキへ戻す事で、
リチュアの儀式モンスターを回収できる。」

2枚とも戻して、ガストクラーケとソウルオーガを手札へ加える！

チェインを守備表示、更に裏側守備で1体召喚。ターン終了」

ラヴァルバル・チェイン

ATK/1800 ↓ DEF/1000

水面

LP/2300

手札/2

モンスター/ラヴァルバル・チェイン(DEF/1000)

裏側守備表示1体

魔法・罠/無し

「ボクのターン、ドロー！」

(……《ソウルテイカー》か。悪くはない引きだな)

このままバトルフェイズ！ セットモンスターに攻撃、バイス・ストリーム！」

光線が裏守備モンスターを貫いた。でも……

「かかったね、ヴィオ！ 伏せてたのは《グリズリーマザー》だ！」

「やべっ……！」

《グリズリーマザー》

効果モンスター

星4/水属性/獣戦士族/攻1400/守1000

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下の水属性モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

通称リクルートモンスター。破壊された時、デッキから別のモンスターを呼び出せるカード。

「このカードが戦闘破壊された時、デッキの攻撃力1500以下の水属性を特殊召喚できる！」

僕は2体目のリチュア・アビスを出して、さらにアビスの効果発動！ 《ヴィジョン・リチュア》を手札へ！」

リチュア・アビス

2 ATK / 800

「……メイン2、《ソウルテイカー》発動！」

相手モンスター1体を破壊し、相手のライフを1000回復する

！」

《ソウルテイカー》

通常魔法

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊する。この効果によって破壊した後、相手は1000ライフポイント回復する。

水面

残りLP / 3300

チェインが光になって破壊される。《地砕き》とかじゃなくてそれが。珍しいな。

「(……この魔法どうしよう。ブラフにはなるかな?)
カードをセットして、ターンエンド!」

ヴィオ

LP / 3600

手札 / 1

モンスター / No. 17 リバイス・ドラゴン (ATK / 2500)

魔法・罠 / 伏せカード 1枚

「僕のターン! ……よし、いいカード!

通常魔法、《サルベージ》を発動! 墓地の水属性・攻撃力1500以下のモンスター2体を回収する!」

《サルベージ》

通常魔法

自分の墓地に存在する攻撃力1500以下の水属性モンスター2体を手札に加える。

「墓地のシャドウ・リチュアとリチュア・エリアルを手札へ加えてと。

そしてシャドウの効果! 手札から捨てて、リチュアの儀水鏡をサーチする!」

準備は整った。このターンでいけるかな？

「そのままりチュアの儀水鏡、発動！

フィールドのアビス、手札のガストクラーケの合計レベル8を”生贄”に捧げ——」

水流が渦巻き、紋様が浮かぶ。

「——降臨せよ！ イビリチュア・ソウルオーガ！」

そして現れたのは、胸元に鏡を付けた怪物。

リチュアの中でも、もっとも強い力を持つ巨大な鬼。

《イビリチュア・ソウルオーガ》

儀式・効果モンスター

星8 / 水属性 / 水族 / 攻2800 / 守2800

「リチュア」と名のついた儀式魔法カードにより降臨。

1ターンに1度、手札から「リチュア」と名のついたモンスター1体を捨てる事で、

相手フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を選択して持ち主のデッキに戻す。

イビリチュア・ソウルオーガ

8 ATK / 2800

「ソウルオーガの効果を発動！ 手札のリチュア1体を捨てる事で、相手の表側表示のカード1枚をデッキへ戻す！ 対象はもちろん、No.17 リバイス・ドラゴン！」

「あーあ……せっかく出したのに残念」

ソウルオーガが咆哮し、リバイス・ドラゴンをデッキへ戻した。

伏せてあるカードは……もうこの際無視しよう。ブラフなのを祈る！

「でもソウルオーガの攻撃力は2800。ボクのライフはまだ3600ある。どうする？」

「足りないなら足せばいいだけ。手札からリチュア・エリアルを通常召喚」

「……あつ」

リチュア・エリアル

4 ATK / 1000

『え……み、水面、もしかして私に止めを刺せと？』

「（醤油う事。頼むよ？）

バトルフェイズ、まずはソウルオーガで直接攻撃！ドレッドヴォルテックス！」

「クツ……！」

ヴィオ

残りLP / 800

「それじゃ、これでとどめだ！ エリアルで直接攻撃！」

『お、おおー！ 食らえー！』

「痛あッ!？」

エリアルが杖でヴィオをぶつ叩き、勝負を決めた。

ヴィオ

残りLP / 0

WIN 水面

「負けた……」

デュエルが終わり、ヴィオの傍に行く。

「ちょっと水面、納得できないよ。なんでエリアルに叩かれて負けなきゃなんのさ」

「現実是非常なんだよ。」

ところで、最後に伏せてたのはなんだったの？」

「ああ、これ」

見せられたのは……《アクア・ジェット》。ブラフだったのか。

《アクア・ジェット》
通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する
魚族・海竜族・水族モンスター1体を選択して発動する。
選択したモンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

「水面、カードの店行くよ。ボクもパック買いたいし……他に良さ
そうなカードあった？」

「そうだなあ……《グラヴィティ・バインド - 超重力の網 -》とか
ならあったよ」

「よし行こう、今すぐ行こう。善は急げ」

なんか盛り上がってるヴィオを横目に、上着に袖を通す。

「紫苑、ダルク、ちょっと行ってくる！」

「気を付けてな」

「私たちにも少し買ってきなさいよ」

2人に見送られ、僕たちは部屋を出た。

Number 2：続・人はそれを、導入部分と呼んだ（後書き）

多分はじめまして。作者のrotocchonと申します。

このサイトの小説に影響されて書いてみたんですが……デュエル構成考えるの難しいなこれw

見やすいように書いたつもりですが、どうだったでしょうか？

因みに僕は小学校の頃、「1週間が期限の作文を1ヶ月で終わらせる程度の能力」を持ってました（え

ではまた。

Number 3…とどのつまり、大会です！（前書き）

タイトルに反し、委員長は出ません。

ただし、それっぽいのことが起こってる描写はあります。

とどのつまり、早く書けって事ですよねごめんなさい。

Number 3…とどのつまり、大会です！

《決勝進出者、ヴィオ・アースバウンド！》

ハイテンションな実況さんの声をさらっと聞き流しつつ、控室に戻る。

どーもこんばんは、毎度おなじみのヴィオですよ。……え、まだ3話目だつて？ こまけえことはいいんだよ！

今の時刻は夜。大会の真っ最中で、ちょうどボクが準決勝を終えたところ。

因みに、夜の大会はさほど珍しい物でもない。元々、昼に出れない人のために作られたとか。

さて、何故ボクが大会に出ているかというと……

その日の朝……というか昼近く。珍しく寝坊したボクは、目を擦りながらリビングへ。

……なんか騒がしいな。

「紫苑、このパソコンまだ動かないの〜！？」

「だから、静かに待ちなさい。今フィルターにかけてる所なんだから」

「あゝ、これじゃ二〇二〇動画見れないじゃん……」

「おいばかやめろ」

orz状態の水面に話を聞くと、なんとコンピュータトラブルが発生したそうだ。

誰かがウイルスを撒いたとかいう噂も立ってるらしい。

「……ん、終わったわ。これで正常に動く筈よ」

作業を終えたらしい紫苑が席を立つ。相変わらず、こういう機械には強いな。

「ナイス紫苑！ さて――」

嬉々としてパソコンを立ち上げる水面。そんなに動画が見たいか。

「さて、新聞は……あつたあつた」

横で新聞を広げ、緑茶を飲む紫苑。

いつも通りの風景がそこにあつて「ブーーーーッ!!?」!?

不審な音がした方を見ると、紫苑がお茶を噴き出したまま固まっていた。

某「考。る人」を想像してほしい。「うごくせき。う」でもok。
とにかくそんな感じに。あえて言うならば、「THE WORLD」。

「紫苑？　いつたいどうし……」

新聞を覗き込み……ボクも固まった。
お茶でぐっしりと濡れた新聞の隅っこ。そこには想定外すぎる事が書かれていた。

「「大会の賞品が……ナンバーズ！？」」

という訳である。残念ながら2人は用事で間に合わず、いるのは僕1人だけ……

そういえばウィルス騒動の影響か、参加してる人が少ないな。ラッキーと見るべきだったかな？

「決勝の相手か……どんなデツキかな？」

ぶつぶつと呟きながら、デツキ調整を進めていく。……あ、これこの前当たったカードじゃん。入れ忘れてたっけ。

「そろそろです、準備の方をお願いします」

「あ、了解です！」

呼ばれたので荷物を纏め、決勝のフィールドへ歩いていく。
さあ、頑張ろうかな。負けるつもりは無いし、きっちりナンバーズ

を貰って帰らなきゃネ。

《それではこれより、決勝戦を開始するウ！

まずはちよくちよく優勝を掻っ攫うダークホース！ ヴイオ・アースバウンド！》

名前を呼ばれ、檀上に上る。ダークホースって……

《そして、今大会最年少！ アルス・ハーヴェストだ！

2人共、いいデュエルを期待しているぜ！》

名前を呼ばれ、上ってくる少年。が、ボクはふと違和感を覚えた。向き合っている相手が、まんま子供なのだ。

たとえば水面の身長が高校1年とするなら、ボクの身長が中学1年程度。

今相対している子は……小学4〜5年位かな？ 赤茶けた髪色で、手には指輪をはめてる。

この大会は年齢無制限。つまり、強い大人なんかもいる。そんな中で、決勝まで勝ち上がってくるとは……気が抜けない。

「えと、よろしく願います！ アルス・ハーヴェストです！」

「あ、うん。ヴィオ・アースバウンドだよ、宜しくね」

やっぱり見た感じ、普通の男の子だ。一体どんなデッキを……？

《それでは指定位置についてくれ！

さあ両者共、ライフの貯蔵は十分か！？ いざ——》

『「デュエル……！！！！」』

ヴィオ LP / 4000

VS

アルス LP / 4000

「俺からいきます！ ドロー！

速攻魔法、《手札断殺》！ お互いに2枚墓地に送って、その後2枚ドローする！」

《手札断殺》
てふだんさつ

速攻魔法

お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする。

《おおっと、いきなり初手からの手札交換！ 一体何を狙っているのかーっ！？》

大方墓地肥やしかな？ こいつらは手札よりも墓地にいる方が都合がいいし、ボクとしても助かるけど……

「俺はモンスターとカードを1枚ずつセットして、ターンエンド！」

アルス

LP / 4000

手札 / 3

モンスター / 裏側守備表示1体

魔法・罠 / 伏せカード1枚

まだどんなデッキかは分かんないな……

「ボクのターン。手札から《フライアング》を召喚！」

緑っぽい色合いの鯨が姿を現す。

《フライアング》

効果モンスター

星3 / 風属性 / 魚族 / 攻1600 / 守 300

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えたバトルフェイズ終了時、

このカードを次の自分のスタンバイフェイズ時までゲームから除外

する。

フライファング

3 ATK / 1600

このデッキのメインアタッカー。

守備表示モンスターとの戦闘時、守備力を超えた分だけ貫通してダメージを与えるモンスターだ。

「先に言うけど、こいつは貫通効果を持つてるよ。

バトルフェイズ！ フライファングで守備モンスターを攻撃！」

フライファングが突進をかけ、蜂のようなモンスターを破壊した。
蜂？

アルス

残りLP / 2700

「くうっ……、破壊された《ゼンマイハニー》の効果が発動します！
戦闘破壊されたとき、デッキからレベル4以下のゼンマイを特殊
召喚！」

なっ……ぜ、ゼンマイ！？

《ゼンマイハニー》

効果モンスター

星1 / 地属性 / 昆虫族 / 攻 100 / 守 300

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、

デッキからレベル4以下の「ゼンマイ」と名のついた
モンスター1体を特殊召喚できる。

「この効果で、デッキから《ゼンマイニャンコ》を守備表示で特殊
召喚！」

《ゼンマイニャンコ》

効果モンスター

星2/地属性/獣族/攻 800/守 500

自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して持ち主の手
札に戻す。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1
度しか使用できない。

ゼンマイニャンコ

2 DEF / 500

猫を模した発条仕掛けが出現した。

ゼンマイ。フィールドにいる限り1度しか使えない代わりに、強力
な効果を持つモンスター群だったっけ。

「バトルフェイズは終了、ライフアングの効果が発動！

このカードが戦闘ダメージを与えたバトル終了時、このカードは
除外される。

そして墓地のウイングトータスの効果！ 場の魚・海竜・水族が
除外された時、特殊召喚できる」

波に吞まれ、姿を消すフライファング。

それと入れ替わりに現れる、亀のようなモンスター。

ウイングトータス

DEF / 1400

「墓地？ …… そっか、さっきの断殺」

「そういう事。1枚カードをセットして、ターンエンド！」

ヴィオ

LP / 4000

手札 / 4

モンスター / ウイングトータス (DEF / 1400)

魔法・罠 / 伏せカード1枚

《先手を取ったのはヴィオ選手！ さらに壁を残すオマケつきだ！
アルス選手、ここからどう動くのかーっ！》

実況さん、テンション高いな。既に夜なんだけど……。良い子は寝る時間だよ？

「俺のターン、ドロー！」

まず手札から永續魔法、《ゼンマイマニユファクチャ》発動！

そしてゼンマイニヤンコの効果、自分のメインフェイズ時に相手モンスター1体を手札へもどすことができます。

選ぶのは…… といっても、ウイングトータスしかいませんけど」

ゼンマイニヤンコの尻尾に弾き飛ばされるウイングトータス。まずいな、残った防御手段はセットカードだけか。

「さらに、ゼンマイマニユファクチャの効果！ 1ターンの1度、ゼンマイの効果が発動したときに使用でき、デッキからレベル4以下のゼンマイを手札に加えることができる！」

《ゼンマイマニユファクチャ》

永続魔法

「ゼンマイ」と名のついたモンスターの効果が発動した場合、自分のデッキからレベル4以下の「ゼンマイ」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

この効果は1ターンの1度しか使用できない。

「この効果で《ゼンマイバット》を手札に加えて、そのまま攻撃表示で召喚！」

《ゼンマイバット》

効果モンスター

星1 / 風属性 / 機械族 / 攻 300 / 守 350

自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードを表側守備表示に変更し、

自分の墓地に存在する「ゼンマイ」と名のついたモンスター1体を

選択して手札に加える。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

ゼンマイバット

1 ATK / 300

次に出てきたゼンマイは、牙が大きめのコウモリ。

「たのむよ、オペレッタ！」

『了解しやした、兄貴！』

ん、もしかして精霊？ ……ここらへんではあまり見ないのに、珍しい事もあるもんだ。

「……ねえ、その兄貴ってやめない？」

『兄貴は兄貴のように。もっとパーツと行きやしようぜ！』

何て言うんだっけ、ああいうの……江戸っ子？

「……魔法カード、《機械複製術》！ 攻撃力500以下の機械族1体をえらんで、

デッキからおなじモンスターを2体特殊召喚します！」

きかいふくせいじゅつ
《機械複製術》

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する

攻撃力500以下の機械族モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターと同名モンスターを2体まで自分のデッキから特殊召喚する。

ゼンマイバット

1 ATK / 300

ゼンマイバット

1 ATK / 300

さらに出てくる、2体のゼンマイバット。精霊なのは最初の1体だけみたいだ。

「ゼンマイバットの効果！ このカードを守備表示に変える事で、墓地のゼンマイ1体を手札に戻す事ができます！

俺は3体全員の効果を使って、ゼンマイハニー、《ゼンマイマジシャン》、そして《ゼンマイマイ》を手札に！」

「うわ、なにそれ！？」

手札断殺の分か……！

ゼンマイバット

1 ATK / 300 ↓ DEF / 350

ゼンマイバット

1 ATK / 300 ↓ DEF / 350

ゼンマイバット

1 ATK / 300 ↓ DEF / 350

《アルス選手、強力な回収効果で手札を肥やしたーっ！》

しかもゼンマイバットはレベル1。それが3体揃ってるといふ事は

……

「いきます！ レベル1のゼンマイバット3体でオーバーレイ！」

『イヤッツホオオオオオオウ！』

節子違う、それはプロや。

と、冗談はこれくらいにしてと。光が渦を巻き、星空のような光景を見せる。ふつくしい……

まるでボクがこの前やった、リバイス・ドラゴン召喚みたいな……

……… 彖？

「3体のモンスターで、オーバーレイ・ネットワークを構築！」

黄金にかがやくネズミよ、わが下に福音をもたらせ！ エクシーズ召喚！」

金色の樽？ が出現し、それが展開されていく。

現れたのは、同じく金色に光り輝く鼠。そしてその頭に刻まれている「56」の番号。

「現れる、《No.56 ゴールドラット》！」

ナンバーズの1体、ゴールドドラットがボクの目の前に姿を現した。

Number 3:…とどのつまり、大会です！（後書き）

ゴールドラットだって立派なナンバーズだッ！

こらそこ、カワイソスとか言うんじゃないッ！（ノド）・・・。

変形の部分はアニメで出なかったので、想像して書きました。イメー
ジしろ！

それからヴィオの名字「アースバウンド」ですが、これは「大会等
に出るとき名字無しだと不便だろう」という理由で適当につけた名
前。

ぶっちゃけ本人は知らないと思ってます。

由来は「地縛神」の英語名、「Earthbound immortal」から。

観察結果、作者は名前のセンスが無いようだ。

Number 4 : 合計数六十六也 (前書き)

いいタイトルが思いつかなかったんです。

反省はしているし、後悔もしている。だが私は謝らない (え

Number 4：合計数六十六也

《おおつとお、初めて見るモンスターだ！ 光輝いている姿が美しいッ！》

僕の前に佇む、「56」のナンバーズ。

ナンバーズ

《No.56 ゴールドラット》

エクシーズ・効果モンスター

星1/光属性/獣族/攻 500/守 600

レベル1モンスター×3

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動できる。

自分のデッキからカードを1枚ドローし、

その後手札を1枚デッキに戻す。

No.56 ゴールドラット

1 ATK/500 OR・U/3

優勝賞品がナンバーズだと聞いてきたら、こんな所で見る事になるとはね。

「《No.56 ゴールドラット》の効果を発動！

オーバーレイ・ユニットを1つ使うことで、デッキから1枚ドロ
ー！

そのあと、手札を1枚デッキへもどします」

そう言つて手札を入れ替えるアルス。手札交換効果を持つてゐるのか……

「バトルフェイズです！ ゴールドラットでダイレクトアタック！
ローリング・ラッシュ！」

「ッ！」

ゴールドラットが回転し、勢いよく突進してくる。攻撃力500なのに異常に迫力あるな。

ヴィオ

残りLP / 3500

「カードを1枚セットして、ターンエンドです！」

アルス

LP / 2700

手札 / 4

モンスター / No. 56 ゴールドラット (ATK / 500)

ゼンマイニャンコ (DEF / 500)

魔法・罠 / ゼンマイマニユファクチャ

伏せカード 2枚

「《アルス選手、巻き返したー！ これは盛り上がってきたぞオー！
！》」

とりあえず実況さん落ち着け。

とはいえ、厳しいのも事実。相手はあんだけやつといて、手札が4枚も残ってるし。

次に何が引けるかで変わるか……

「ボクのターン……ドロー！」

このカードは……この前当たったやつか！ 上出来！

「スタンバイフェイズ、除外されてた《フライファング》の効果！自身の効果で除外した場合、次の自分のスタンバイフェイズに戻ってくる！」

フライファング

3 ATK / 1600

「更に手札から、《ウイングトータス》を召喚するよ！」

ウイングトータス

3 ATK / 1500

再び現れるウイングトータス。このデッキにおいて、過労死の称号を持つ1体。

《レベル3のモンスターが、2体！ ヴイオ選手、逆転なるかッ！？》

逆転するさ。目的もあるし……ネ！

「レベル3のフライファングと、ウイングトータスをオーバーレイ！2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築、エクシ

ーズ召喚！

浮上せよ！ 《潜航母艦エアロ・シャーク》！」

巨大な鯨が2体連結したようなモンスター。その効果は、超強力と言える。

《せんこう ぼかん潜航母艦エアロ・シャーク》

エクシーズ・効果モンスター（アニメ効果）

星3 / 水属性 / 魚族 / 攻1900 / 守1000

レベル3 モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

手札の枚数×400ポイントダメージを相手ライフに与える。

潜航母艦エアロ・シャーク

3 ATK / 1900 OR・U / 2

「エ、エアロシャーク！？ やば……」

アルスが若干慌てている。まあ、こいつの効果強いしなあ。

「エアロシャークの効果、発動！ ユニットを1つ取り除く事で、自分の手札1枚につき400ポイントのダメージを与える！
ボクの手札は今……4枚。よって1600ダメージを食らえ！
エアロ・トルピード 4！」

「うわぁっ！」

潜航母艦エアロ・シャーク

OR・U / 1

アルス

残りLP / 1100

エアロシャークが魚雷を打ち出し、アルスのライフを削る。

《ヴィオ選手、王手だ！ このまま決まるのかアー！？》

決まればいいんだけど、ね。

でも向こうにはまだ、セットカードが残っている。

「何もなければ止め！ バトルフェイズ、

エアロシャークでゴールドラットを攻撃！ ビッグ・イーター！」

「まだ負けませんよ！ 罠カード、《ガード・ブロック》！

俺への戦闘ダメージを0にし、1枚ドロー！」

《ガード・ブロック》

通常罠

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、

自分のデッキからカードを1枚ドローする。

やっぱり何かあったか。さて、どうするかな？

次のターンまでエアロ・シャークとライフを保てれば、多分勝てる。

でもあつちの手札は大量にあるし……できる限りの罫を張っとくかな。

「手札を3枚セット。ターンエンド!」

ヴィオ

LP / 3500

手札 / 1

モンスター / 潜航母艦エアロ・シャーク (ATK / 1900)

魔法・罫 / 伏せカード4枚

《再びヴィオ選手が盛り返す! 白熱した戦い! テンション上がってきたアー!》

お前がテンション上がってどうする。

「俺のターン、ドロー!

(このターンでヴィオさんを倒すか、エアロシャークを破壊しなきゃいけない。

でも向こうのライフは2700もあるし……なら!)

罫カード発動! 《発条の巻き戻し》!」

《ぜんまい発条まのもど巻き戻し》

通常罫

自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル4以下の「ゼンマイ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に戻し、

戻したモンスターと同レベルの「ゼンマイ」と名のついたモンスター1体を手札から特殊召喚する。

「レベル2のゼンマイニヤンコを手札にもどして、同じレベル2の《ゼンマイマイ》を手札から特殊召喚します！」

猫と入れ替わりに、桃色のカタツムリが出てくる。なにあれかわいい。

《ゼンマイマイ》

効果モンスター

星2 / 水属性 / 水族 / 攻 100 / 守 2000

自分のメインフェイズ時、フィールド上にセットされたカード1枚を選択して持ち主の手札に戻す事ができる。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

ゼンマイマイ

2 DEF / 2000

「さらに手札から《ゼンマイマジシャン》を召喚！」

今度は魔法使い風のゼンマイ。いや、風じゃなくて魔法使い族か。

《ゼンマイマジシャン》

効果モンスター

星4 / 炎属性 / 魔法使い族 / 攻 600 / 守 1800

「ゼンマイマジシャン」以外の「ゼンマイ」と名のついたモンスターの

効果が発動した場合、自分のデッキから「ゼンマイ」と名のついたレベル4以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1度しか使用できない。

ゼンマイマジシャン

4 ATK / 600

「マイマイの効果！ 相手のセットカード1枚を手札へもどす！」

《次元幽閉》が帰ってきた。お帰り。酷い。

「《ゼンマイマニユファクチャ》の効果で、2体目のマジシャンを手札に。

さらにマジシャンの効果です！ マジシャン以外のゼンマイが効果発動したとき、

デッキからゼンマイ1体呼び出します！ あらわれる、《ゼンマイナイト》！」

《ゼンマイナイト》

効果モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻 1800 / 守 1200

自分フィールド上に表側表示で存在する

「ゼンマイ」と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、

そのモンスターの攻撃を無効にする事ができる。
この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り1
度しか使用できない。

いかにも騎士といった風貌のゼンマイ。ゼンマイって色んなのがい
て面白いな。

というかマニユファクチャ、まだあつたっけ。すっかり忘れてた……

「魔法カード、『揺れる発条秤』。俺はゼンマイ2体を、そしてそ
の中から相手が1体選ぶ。

そして相手の選んだモンスターにレベルをそろえます。

ただし低いレベルの方にそろえた場合、俺は1枚ドローできる。

俺はマイマイとマジシャンを選ぶ。どうしますか？」

《揺れる発条秤》ぜんまいばかり

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する、

レベルが異なる「ゼンマイ」と名のついたモンスター2体を選択し
て発動する。

その内1体を相手が選び、もう1体のモンスターのレベルはエンド
フェイズ時まで、

相手を選んだモンスターと同じになる。

相手がレベルの低いモンスターを選んだ場合、

その後自分のデッキからカードを1枚ドローできる。

むう……どうしようか。高い方を選べば、レベル4が3体揃う事にな
る。

でも低い方を選んで結局レベル2が揃うし、1枚ドロされる……

「……ボクはレベル4のマジシャンを選択するよ。ドロはさせない」

これ以上ドロさせたくないしね。

ゼンマイマイ

2 ↓ 4

「うーん……よし、いきます！」

レベル4になったマイマイ、マジシャン、ナイトの3体をオーバーレイ！」

光が渦を巻き、爆発を起こす。この演出は……！

「光の騎士よ、今こそ反撃ののろしを上げろ！ エクシーズ召喚！」

輝け、《No・10 白輝士イルミネーター》！」

4本脚の像が変形していく。

下部は馬の形に。そして上部は、骸骨のような顔の騎士に。肩当てに刻まれた番号は「10」。2体目のナンバーズか……！

《No・10 白輝士イルミネーター》

エクシーズ・効果モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻2400 / 守2400

レベル4 モンスター×3

1ターンの1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

自分の手札を1枚墓地へ送り、自分のデッキからカードを1枚ドロ―する。

No.10 白輝士イルミネーター

4 ATK / 2400 OR・U / 3

《おっと、また未知のモンスターだ！ 凄いぞ、カッコいいぞーッ
！！！！》

だんだん実況さんがネタ要員に。わけがわからないよ……

「イルミネーターの効果！ ユニットを1つ使うことで、手札を1枚墓地へ。

そして1枚ドロ―！」

イルミネーターの剣にユニットが吸い込まれ、手札を入れ替えるア
ルス。

さっきのゴールドラットといい、やたら手札交換が多いのは気のせ
い？

「行きます！ 白輝士イルミネーターで、エアロシャークを攻撃！
ブライトネス・クラリフィケーション！」

身を翻して斬りかかるイルミネーター。セット3枚に突っ込んでく
るとは度胸があるね。

「罨カード発動、《ポセイドン・ウェーブ》！ イルミネーターの攻撃を無効にし、さらに800ダメージを与える！」

アルス

残りLP / 300

津波がイルミネーターを呑み込み、押し返す。ついでにアルスにもダメージを与えていく……が。

「待ってました！ 速攻魔法、《ダブル・アップ・チャンス》を発動！

攻撃を無効にされたモンスターの攻撃力を2倍にし、もういちど攻撃できます！」

「ん何イ！？」

《ダブル・アップ・チャンス》

速攻魔法

モンスターの攻撃が無効になった時、

そのモンスター1体を選択して発動する。

このバトルフェイズ中、

選択したモンスターはもう1度だけ攻撃する事ができる。

その場合、選択したモンスターはダメージステップの間攻撃力が倍になる。

No.10 白輝士イルミネーター

ATK / 2400 ↓ 4800

「まさか入れてるなんて……使いづらいつて不人気のカードなのに」

「どんなカードでも、活躍できる場所があるってだれかが言ってます！

もう1度、エアロ・シャークを攻撃！ ブライトネス・クラリフィケーション！」

迫力の増したイルミネーターの剣が、今度こそエアロ・シャークを捕えた。

でも……

ヴィオ

残りLP / 200

「俺はこれで、ターンエンド！」

アルス

LP / 300

手札 / 3

モンスター / No. 10 白輝士イルミネーター (ATK / 2400)

魔法・罠 / ゼンマイマニユファクチャ

セットカード無し。防御系モンスターもいない。

「ボクのターン、ドロ……。さあ、ボクの勝ちだ！」

「え!？」

《ヴィオ選手、なんとここで勝利宣言だーッ!》

騒々しくなる観客席。いいね、エンターテイメントだね。

「さあ目に焼き付ける。これがボクの、最後の一手だ!」
リバーiscard、オープン! 《エクシーズ・リボーン》発動!

この前当たった、例のカード。ゼンマイマイに狙われずに助かったよ。

「このカードは、自分の墓地からモンスター・エクシーズ1体を蘇生させる。

そして蘇生後、このカードは蘇生したモンスターのオーバーレイ・ユニットとなる!」

《エクシーズ・リボーン》
通常罫

自分の墓地のエクシーズモンスター1体を選択して発動できる。

選択したモンスターを特殊召喚し、このカードを下に重ねてエクシーズ素材とする。

「さあ、我が下に蘇れ。潜航母艦エアロ・シャークッ!」

潜航母艦エアロ・シャーク

3 ATK/1900 OR・U/1

《なんとッ！ これは見事な大逆転劇だァー！》

ボクの手札は2枚。まあ、ハンドレスじゃ無けりゃ何枚でもいいけど。

「……なるほど、俺の負けか……」

「楽しかったよ。エアロ・シャークの効果、発動！

手札は2枚、よって800ダメージ！ 打ち放て、エア・トル
ピード 2！」

潜航母艦エアロ・シャーク

残りOR・U / 0

アルス

残りLP / 0

WIN ヴイオ

「なるほどそれで、そのアルス君が持ってたナンバーズを回収するのを忘れたと」

「だから、忘れたんじゃないって！

あんな観客が大勢いる中で、相手のエクストラから抜き出せってんな無茶な……」

どうも。只今、水面に虐められてる所です。

アルス君のナンバーズを取り忘れて、それをネタにネチネチと……

「賞品のナンバーズはもらって来たんでしょ？　ちよつと見せてよ」

「ん、良いけど……はいよ」

荷物の中からナンバーズを取り出し、水面に渡す。

氷の洞窟と水色の恐竜が描かれた、「19」のカード。

「ランクは……5かぁ。僕のデッキには入らなさそうだなぁ」

「リチュアは偶数レベルばっかだからね……あ、紫苑って確かレベル5使ってたよね？」

「そーだね、明日にでも渡しに行けば？　今日はもう遅いし」

ふと時計を見ると、既に11時を回っていた。やっべ、早く寝ないとまた寝坊するな……

とある路地裏にて。アルス・ハーヴェストは迎えを待っていた。

「アルス様」

と、そこへ声がかかる。声をかけたのは、白髪の壮年の男性。年齢

は……60は超えているだろう。

「あ、千代おじいちゃん」

「どうでした、大会は」

一見して、とても仲は良さそうだ。むしろ家族のような雰囲気さえある。

「負けた。相手の人、すごく強かったよ」

「左様ですか。残念でしたね……」

「手に入らなかったなあ……この子もさみしそうにしてるし」

そう言って、1枚のカードを取り出すアルス。

炎を纏った恐竜の姿が描かれたそのカードには、黄色く光る「61」が刻まれている。

「さあ、そろそろ帰りましょう。風邪を引きますよ」

「うん」

2人は手を繋ぎ、帰路についた。

「あれ、空になにか浮かんでは？」

「ほお、あれは……バグマンでしょうか？ 中々に綺麗なものです
ね……」

Number 4: 合計数六十六也(後書き)

前回と今回は、OCGであんまり使われない奴らを書きたいZE！
という目論見がありました。

それでも瞬殺されるゴールドラットさん。(ノム)。。。
そして大活躍のエアロシャークさん。(＊`ω`＊)流行ったらいいな……

次話にて、やっと初めて原作キャラが出る予定です。

ただし顔芸に限る(殴

Number 5: 情報はパワーだぜ! (前書き)

推奨BGM: 「好敵手」

この人相手ならこの曲でしょう。34番は出ませんが……

Number 5：情報はパワーだぜ！

《世の人々を救うため、今日も正義の大盤振る舞い！ 異次元エスパ・ロビン参上！》

「……ヴィオ、まさかハマった？」

「むしろ現在進行形でハマってるなう」

皆さん、御機嫌よう。神代水面です。

《遙かな次元を越えて、貴様を倒すために俺はやってきたんだ！
俺の正義が大手を振るうぜ、ビッグEパアアアンチ！》

「録画までして観たいもんなの、その番組……？」

少し前から、ヴィオが特撮番組なるものにハマっている。特撮にハマる地縛神……シュールだ。

ちなみにタイトルは《異次元エスパ・ロビン》。子供向けなのに、深夜に再放送もされているらしい。

「僕は用事があるから出かけてくるけど、ヴィオはどうする？」

「んー、なにー？」

ダメだこいつ、生返事してやがる。ほっといて行こつ。

《次回、湯煙決戦！ ロビンよ永遠に！》

「終わった……あれ、水面？ どこいった？」

信号を右に曲がって……あの喫茶店か。看板には《D - CAFE》
と書いてある。

あの名前はD - HEROのもじりかな？ よくある事が、《ジェム
ナイト宝石店》なんてのもあるし。

中に入ると、すでに相手の人は来ていた。少し待たせちゃったかな。

「遅くなりました、右京先生」

「おお、水面くん。久しぶりだね」

待ち合わせの相手は僕の元担任、北野^{きたの} 右京先生^{うきょう}。
赤っぽい色の髪に、メガネが特徴的な人だ。

「とりあえず座ってくれ。本題に入る前に、少し世間話でもしない
かい？」

「ん、ではお言葉に甘えて。注文はどうしようか……あ、ブルーア
イズ・マウンテンあるじゃん」

「えっ」

「えっ」

運ばれてきたB・Mを一口飲む。この苦み走ったパワーが……やめ
とこ、新聞紙で叩かれないうちに。
あ、右京先生ならこの前の騒動、何か知ってるかな？ ああいう機
械には強いし。

「……そういえば、この前のコンピュータートラブルなんですけど」
「ムグッ……ゲホッ、ゲホッ!!」

「ちょ、右京先生!? 水、水!」

先生が突然むせた。なんか変な事言ったかな？

「ゴクッ……ハア。すまないね、水面くん。
さて、そろそろ本題に入ろうか。「彼」が今どんな状態か、だっ
たね」

そうだ、本題を忘れてた!

「……最近、不登校気味だって聞きましたし、僕1人じゃ調べるの
も限界なもので」

「そうか……では単刀直入に言おう。
彼は最近、不良グループとつるんでいるらしい」

「ふ、不良グループ!?」

つい大声を上げてしまった。周りからの視線が痛い。

「で、その不良グループってどのどいつらですか?」

「む……それがな……」

なにか言いづらそうな先生。不味い事とかあるんだろうか?

「先生、何か言えない理由でもあるんでしょうか?」

「いや、言えない事は無いんだが……」

まず、むこうは不良グループだ。ヤクザとつるんでいる可能性もある。分かるね?」

「わかってます。煮るなり焼くなり好きにしてもいいって事でs」
その思考が駄目なんだ」へ?」

「相手は不良グループだぞ? 君1人では返り討ちにあつだろう。
アンティでカードを奪ったりもしているそうだし」

なんだ、そんな事が……先生も心配性だね。

「僕がデュエルで、そこらの多人数相手に負けるとでも?」

「私に負け越していたと思うが?」

「あの頃とは違うんです。そんなに心配なら——」

ゆっくりと席を立つ。右京先生もそんな僕を見て、同じく席を立った。

「——宜しい、ならば決闘^{けっとう}だ」

10分後、近くの公園広場にて。

「それじゃ水面くん、始めようか」

「お手柔らかに頼みます」

決闘盤を腕にはめ、展開する。

言ってなかったけど、僕の決闘盤は普通の物と違う。

実はこの決闘盤、改造セット的な物が販売されており、色変えや装飾が意外と簡単にできるのだ。

僕が改造したのは、特に色。透き通るような（実際透明なガラス部分もあるけど）青色で、金と紺の2色で縁取ってある。

パツと見ればふつくしいと言える色合い……なハズ。たぶん。

あ、D・ゲイザーは普通の青っぱいやつね。

「決闘盤、セット」

「D・ゲイザー、セット」

『ARヴィジョン、リンク完了』

「デュエル!!」

水面 LP 4000

VS

右京 LP 4000

「先行は私か。ドロー！」

モンスターを裏側守備表示でセット。魔法・罠もセットし、ターンを終了する！」

右京

LP / 4000

手札 / 4

モンスター / 裏側守備表示1体

魔法・罠 / 伏せカード1枚

堅実な一手。右京先生はプレイングも上手いし、厳しい戦いになりそうだ。

「僕のターン、ドロー。」

……とりあえず攻撃しようかな。《リチュア・チェイン》を攻撃表示で召喚」

《リチュア・チェイン》

効果モンスター

星4 / 水属性 / 海竜族 / 攻1800 / 守1000

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキの上からカードを3枚確認する。

確認したカードの中に儀式モンスターまたは儀式魔法カードがあった場合、

その1枚を相手に見せて手札に加える事ができる。
確認したカードは好きな順番でデッキの上に戻す。

リチュア・チェイン

4 ATK / 1800

「チェインの効果を発動します！ 召喚成功時、自分のデッキを上から3枚確認。

その中に儀式モンスター及び儀式魔法があつた場合、相手に見せる事で手札に加える！」

めくつたのは……《シャドウ・リチュア》、《ヴィジョン・リチュア》、《リチュアの儀水鏡》！

「儀式魔法、リチュアの儀水鏡を手札へ！

バトルフェイズに入ります。チェインで守備モンスターに攻撃！」

チェインの名の通り、鎖を使って攻撃を仕掛ける。裏守備は……大

方あのカードかな？

「私のモンスターは《バグマンX》、守備力は2000だ。迎え撃て！」

《バグマンX》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守2000

このカードが召喚に成功した時、

自分フィールド上に「バグマンY」が表側表示で存在する場合、自分のデッキから「バグマンZ」1体を特殊召喚する事ができる。

バグマンX

3 DEF 2000

水面

残りLP / 3800

人型で爆弾のような頭をしたモンスターが、チェインの鎖を弾き返した。

さて、どうするか……と言っても、あいつを破壊できる手段が無いし……

「カードを1枚伏せて、ターン終了です」

水面

LP / 3800

手札 / 5

モンスター / リチュア・チェイン (ATK / 1800)

魔法・罾 / 伏せカード 1 枚

「では、私のターン。ドロー！

私は手札より、《バグマンZ》を召喚する」

さっきのバグマンXに似た、細長めのモンスターが召喚される。

……もう揃ったの！？

《バグマンZ》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 1500

このカードが召喚に成功した時、

自分フィールド上に「バグマンX」が表側表示で存在する場合、

自分のデッキから「バグマンY」1体を特殊召喚する事ができる。

バグマンZ

3 ATK / 0

「バグマンZの効果を発動する。

このカードが召喚された時、私の場にバグマンXが存在していれば、

デッキから《バグマンY》を特殊召喚できる！」

Zに続き、大きめの体躯のバグマンが現れた。

《バグマンY》

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1400 / 守1600

このカードが召喚に成功した時、

自分フィールド上に「バグマンZ」が表側表示で存在する場合、

自分のデッキから「バグマンX」1体を特殊召喚する事ができる。

バグマンY

3 DEF / 1600

X、Y、Zとフィールドに整列するバグマン達。そして、そのレベルは……すべて3。

「私はレベル3のバグマンYとZをオーバーレイ、

2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築する！」

赤い光に飲み込まれていくYとZ。何がくる？

「エクシーズ召喚！ 現れろ、《Wind-Up Zenmaines》
es》！」

《Wind-Up Zenmaines》

Xyz・EFFECT (海外先行カード 2011/12/07
時点)

RANK3 / FIRE / Machine / ATK1500 / DEF
2100

2 Level 3 monsters

If this face-up card on the field would be destroyed, you can detach 1 XYZ Material from this card instead. Once per turn, during the End Phase, if this effect was used this turn: Target 1 card on the field; destroy it.

Wind-Up Zenmaines

3 ATK/1500 OR・U/2

現れたのは、蟹を模したと思われる発条仕掛け^{ゼンマイ}。

まさか海外のカードを出してくるとは思わなかった。しかも、守備力の方が高いのに攻撃表示？

「ではいくぞ！」

Zenmainesで、リチュア・チェインを攻撃だ！」

Zenmainesが、巨大なはさみでチェインを攻撃する。でも攻撃力で劣るのに攻撃……だめだ、効果が読めないや。

「何も無いならば、ダメージステップだ。手札から速攻魔法《リミッター解除》を発動する！」

……へ？ リ、リミッター解除！？

《リミッター解除^{かいじょ}》

速攻魔法（制限カード）

このカード発動時に、自分フィールド上に表側表示で存在する全ての機械族モンスターの攻撃力を倍にする。

この効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

Wind-Up Zenmaines

ATK/1500 ↓ 3000

「リチュア・チェイン、撃破だ！」

水面

残りLP/2600

……おかしい。リミッター解除のデメリットを知らない訳がない。それを止めてもなく、下級を撃破する為に使う？

「リミッター解除を受けたモンスターは、エンドフェイズに自壊するデメリットがありますよね？」

右京先生、一体何を狙って……」

「今から教えてあげよう。このエンドフェイズ、リミッター解除の効果は切れ、Zenmainesは破壊される。だがこの瞬間、Zenmainesの効果が発動！

表側表示のZenmainesは、自身のオーバーレイ・ユニット1つを身代わりとし、破壊を防ぐ」

Wind-Up Zenmaines

ATK / 3000 ↓ 1500 残りOR・U / 1

「そしてエンドフェイズ……つまり今この瞬間、Zenmainesのもう一つの効果が発動する。

この身代わりの効果を使用したターンのエンドフェイズ時、フィールド上のカード1枚を選択し破壊する強制効果だ。対象は君のセットカード！

これで私のターンは終了だ」

破壊されたのは《リチュアルバスター》。キーカードが狙われるよりマシかな……

《リチュアルバスター》

通常罠

儀式モンスターが儀式召喚に成功した時に発動する事ができる。

次の自分のターンのスタンバイフェイズ時まで、

相手は魔法・罠カードの効果の使用及び発動はできない。

しかし上手いなあ。やっぱ一筋縄ではいかないか。

右京

LP / 4000

手札 / 2

モンスター / Wind - Up Zenmaines (ATK / 1500)

バグマンX (DEF / 2000)

魔法・罠 / 伏せカード1枚

「さて、僕のターン。ドロ」

ユニットを1つ使って、破壊を防ぐzenmaines。とすると、
使えるのはあと1回。
まずは……

『……やっと見つけた！ 探したよ、水面』

と、なんだか疲れてるヴィオがやってきた。
今のヴィオは精霊化してるから、普通の人には見えてない。……な
ぜ僕が見えてるかって？ それは大いなる蟹の味噌汁。

「（ヴィオ、話は後で。色々と重要なデュエルだから）
手札から、《リチュア・ビースト》を召喚！」

リチュア・ビースト

4 ATK / 1500

半漁人のような、緑色のモンスター……リチュアってこういうタイ
プのモンスター多いな。

「ビーストの効果を発動！ 召喚に成功した時、墓地からレベル4
以下のリチュアを復活させる！
もう一度頼むよ、チェイン！」

リチュア・チェイン

4 DEF / 1000

紫色の魔法陣から、再び現れるチェイン。

「レベル4のビーストとチェインをオーバーレイ！ 2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築！」

その力で、彼の魂を浄化せよ！ エクシーズ召喚、《イビリチュア・メロウガイスト》！」

《イビリチュア・メロウガイスト》

エクシーズ・効果モンスター

星4 / 水属性 / 水族 / 攻2100 / 守1600

レベル4モンスター×2

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、そのダメージ計算後にこのカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事で、

破壊したそのモンスターを墓地へ送らず持ち主のデッキに戻す。

イビリチュア・メロウガイスト

4 ATK / 2100 OR・U / 2

倒したモンスターをデッキへ戻すという効果を持つ、通称リクルートキラー。

ランク4の中でも扱いやすいモンスターだ。

「バトルフェイズ！ メロウガイストで、バグマンXを攻撃します！ ウィンディア・ブルー！」

「む、確かメロウガイストの効果は……」

「そういう事です。メロウガイストの効果を発動！
モンスターを戦闘破壊した時にユニットを使う事で、そのモンスターをデッキに戻します！」

ユニットが杖に吸収され、青緑色の渦潮を起こす。その渦潮に吞まれ、バグマンXはデッキへ戻された。

イビリチュア・メロウガイスト
残りOR・U / 1

「カードを1枚伏せて、ターン終了！」

水面

LP / 2600

手札 / 4

モンスター / イビリチュア・メロウガイスト (ATK / 2100)

魔法・罨 / 伏せカード1枚

「私のターン。手札より魔法カード、《エクシーズ・ギフト》を発動！」

このカードは、フィールド上にモンスター・エクシーズが2体以上存在する場合のみ発動可能だ。

私のデッキから、カードを2枚ドローする！」

《エクシーズ・ギフト》

通常魔法 (アニメ効果)

フィールド上にエクシーズモンスターが

表側表示で2体以上存在する場合に発動する事ができる。
自分のデッキからカードを2枚ドロースする。

2枚ドロース!? まるで《強欲な壺》だ。

『この前のパックに入ってたよ? ボクのデッキにも入れてるし』

「(嘘!? んないいいカード持ってるんなら教えてよ!)」

『やだよ、こういう反応が楽しみで黙ってたんだもん』

くそ、絶対に手に入れてやる! 覚えてろ!

「ふむ……《おろかな埋葬》を発動。デッキからバグマンXを墓地へ送る。」

更に魔法カード、《鬼神の連撃》を発動だ!」

《おろかな埋葬》
まいそつ

通常魔法 (制限カード)

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

《鬼神の連撃》
きしん れんげき

通常魔法

自分フィールド上に表側表示で存在するエクシーズモンスター1体を選択し、

そのエクシーズ素材を全て取り除いて発動する。

このターン、選択したモンスターは1度のバトルフェイズ中に2回

攻撃する事ができる。

「私はZenmainesのオーバーレイ・ユニットを全て取り除き、2回攻撃を付与する！」

何か仕掛けてくるつもりかな？ 嫌な予感しかないけど……

「そして私は、墓地のバグマンX、Y、Zを全て除外！

水面くん、私の切り札を見せてあげよう！ 出でよ、《スーパーバグマン》！」

先生の言葉と共に3体のバグマンが集結し、電子の巨人へと姿を変える。これが先生の切り札か！

《スーパーバグマン》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守3000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する「バグマンX」「バグマンY」「バグマンZ」を

ゲームから除外した場合に表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

フィールド上に表側攻撃表示で存在する

全てのモンスターの攻撃力・守備力を入れ替える。

「スーパーバグマン」はフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。

スーパーバグマン

4 DEF / 3000

「つて、守備力3000!？」

固いにも程があるよ。それに、こっぴうのは絶対に何か効果を……

「スーパーバグマンの永続効果を発動! このカードが存在する限り、

攻撃表示モンスター全ての攻守を入れ替える!」

イビリチュア・メロウガイスト

ATK / 2100 ↓ 1600 DEF / 1600 ↓ 2100

Wind - Up Zenmaines

ATK / 1500 ↓ 2100 DEF / 2100 ↓ 1500

まるで生ける《反転世界》だ。これは酷いや。

『 \ (^ o ^) / オワタ 』

「 (なんかム力つくからやめてくれない?) 」

『 (^ o ^) \ (^ o ^) オウベイカ 』

「 (だからやめろつつってんだろダラズ!) 」

茶化すのはやめてほしい。うざいから。

「行くぞ、バトルフェイズ! Zenmainesでメロウガイスト

トを攻撃！」

Zenmainesがはさみで斬りかかる。が、簡単に食らう訳にはいかない！

「罨カード、《ポセイドン・ウェーブ》を発動！ モンスター1体の攻撃を無効に。

そして自分フィールドの魚・海竜・水族……僕の場合にはメロウガイスト1体、

その数×800ポイントのダメージを与えます！」

「むっ……！」

右京

残りLP / 3200

津波が蟹を押し返す。なんという海の風景……あ、これってやっと初ダメージか。

「だが、Zenmainesにはもう1度の攻撃権が残されている。よって、再度攻撃だ！」

水面

残りLP / 2100

Zenmainesの攻撃力と同じ数値のLP……不吉すぎる。

「私はカードをセット。これで終了だ」

右京

LP / 3200

手札 / 0

モンスター / Wind-Up Zenmaines (ATK / 2100)

スーパーバグマン (DEF / 3000)

魔法・罫 / 伏せカード2枚

さて。逆転できるかな？ とは言っても、チェインの効果で既にわかってるんだけど……

「僕のターン、ドロー！」

……さて、やってやんよ！

「魔法カード、《大嵐》発動！ フィールド上の魔法・罫を全て破壊する！」

「なんだと！？ (《ダメージ・ワクチンΩMAX》と《ヘイト・バスター》が……！)」

おおあいつし
《大嵐》

通常魔法 (制限カード)

フィールド上に存在する魔法・罫カードを全て破壊する。

嵐に巻き込まれ、伏せカードが破壊された。

さて、先生の伏せてたカードはなんだったかなー……

《ダメージ・ワクチンΩMAX》

通常罠

自分が戦闘またはカードの効果によってダメージを受けた時に発動する事ができる。

自分が受けたそのダメージの数値分だけ自分のライフポイントを回復する。

ダメージ回復か。右京先生らしいといえばらしいけど。

もう一枚は……うわ、ヘイト・バスター！？

《ヘイト・バスター》

通常罠

自分フィールド上に表側表示で存在する悪魔族モンスターが

攻撃対象に選択された時に発動する事ができる。

相手の攻撃モンスター1体と、攻撃対象となった自分モンスター1体を破壊し、

破壊した相手モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

意外と恐ろしいものを。先生の本気って怖。

「手札から《ヴィジョン・リチュア》の効果を発動！

このカードを捨てる事で、デッキからリチュアの儀式モンスター

……

《イビリチュア・ソウルオーガ》を手札へ！」

《ヴィジョン・リチュア》

効果モンスター

星2 / 水属性 / 海竜族 / 攻 700 / 守 500

水属性の儀式モンスターを特殊召喚する場合、

このカード1枚で儀式召喚のためのリリースとして使用する事ができる。

また、手札からこのカードを捨てる事で、

自分のデッキから「リチュア」と名のついた儀式モンスター1体を手札に加える。

シャドウと対を成すモンスター。リチュアが上手く回ってるのはこの2人のおかげだと思う。

「行きますよ、右京先生！ 儀式魔法、リチュアの儀水鏡を発動！」

「ほう……久々に見るな、儀式召喚は」

儀式使ってる人なんて少ないしね。

「シャドウ・リチュア及び、ヴィジョン・リチュアの効果。

水属性の儀式モンスターを召喚する場合、このカード1体でリリースを賄える！」

僕は手札のシャドウを”生贄”に——！」

水流が立ち昇り、儀水鏡の紋様が現れる。

今回も頑張ってもらおう事になりそうだ。頼むよ！

「——降臨せよ、レベル8！ イビリチュア・ソウルオーガ！
攻守はどっちも2800。スーパバグマンの影響はほぼ受けません！」

イビリチュア・ソウルオーガ

8 ATK / 2800

「バトルフェイズ！ ソウルオーガでZenmainesを攻撃、
ドレッドヴォルテクス！」

「ッ！」

ソウルオーガが濁流が起こし、蟹を押し流し破壊する。……やつぱり海の風景だ。

右京

残りLP / 2500

「カードを1枚伏せ、ターン終了です」

この伏せカード。次の先生の行動次第で、決着がつく！

水面

LP / 2600

手札 / 0

モンスター / イビリチュア・ソウルオーガ (ATK / 2800)

魔法・罫 / 伏せカード1枚

「……私のターン！」

（ヘイト・バスターを失ったのは大きかったか……手札に《クラッキング》が来たというのに！）

私はスーパーバグマンを攻撃表示に変更する！ 自身の効果により、攻守を反転！」

スーパーバグマン

ATK / 0 ↓ 3000 DEF / 3000 ↓ 0

くるか……！？

「バトルフェイズ！ スーパーバグマンで、ソウルオーガを攻撃！」

よし！

「伏せカード発動！ 速攻魔法、《禁じられた聖杯》！

スーパーバグマンの攻撃力を400ポイントアップし、効果を無効に！」

「何だと！？」

スーパーバグマンの弱点は、効果の無効。

自身の効果が消えた瞬間、攻守入れ替えは消滅する！

スーパーバグマン

ATK / 3000 ↓ 400 DEF / 0 ↓ 3000

「これでスーパーバグマンの攻撃力は400。ソウルオーガの敵じゃない！」

スーパーバグマンの勢いが急激に減り、ソウルオーガが返り討ちにした。

右京

残りLP / 100

「……私に出来る事は無い。ターン終了だ」

右京

LP / 100

手札 / 1

モンスター / 無し

魔法・罠 / 無し

久しぶりに本気でやったな。やっぱり右京先生は強い。

「ドロー。」

右京先生、楽しいデュエルでした」

「ああ、私もだ。久々だよ、ここまで本気を出したのは」

さあ、この決闘に終止符を……ってね！

「イビリチュア・ソウルオーガで止め！ ドレッドヴォルテクス

！
」

濁流の渦が右京先生を飲み込み、ライフを削りとった。

右京

残りLP /

0

WIN 水面

Number 5：情報はパワーだぜ！（後書き）

恐らく気付いてた人もいたでしょう。

水面の名字は……おっと、失敬。

1話にデュエル入りで納めてみましたが、長いとか短いとか見難いとか醜いとかありましたか？

何か意見があればコメント下さい。

では、また次回。

Number 6:とある奴等の日常(?) 観察(前書き)

罨カード、《一級フラグ建築術》発動！

このカードは前書きでのみ発動でき、

この話の間、自分は好きなタイミングで任意の数だけフラグを立てる事ができる！

デュエルハ無シデスヨ、読者サマ！

Number 6…とある奴等の日常(?) (観察)

神代 水面の場合

キン！ キン！ キン！

「どうした水面、動きが散漫になってきてるぞ」

今、剣の鍛錬をしている真つ最中。

……と言うと聞こえがいいけど、実際は振り回してるだけだったり。

「っ……！ うわっ、ちょ、危な！」

「剣だからな」

「僕は剣より杖の方が使いやすいつてのに……！」

相手をしてくれてるのは《リチュア・アバンス》。

今日は、精霊界にあるリチュアの里に遊びに来ている。さすがに人間界で剣を振り回す訳にもいかないし。

さて、僕が剣を振り回してる理由とは……

「水面くん」

「はい？」

昨日のデュエルに勝利し、件のチンピラ共の名前を聞き出した僕に、右京先生が声をかけた。

「もう1度言っておくが、相手は不良グループだ。

大勢でかかってくる可能性もあるし、デュエルで負けたからといって大人しく引き下がるかどうか……」

「あー、なるほど。リアルファイトに発展する可能性がある」と

「……まあとにかく、危険だという事が理解出来ているなら良しとしよう。」

危ないと思ったら、何かある前に撤退しなさい」

という訳で、とりあえず体鍛えようぜ！ という考えの元、アバンスと剣を打ち合っているのである。

別に鍛えるなら普通の運動でもいい気がするけ

「水面、相手を目の前にして考え事とはいいい度胸だな。少しばかり制裁してやる」

ど……ん？

「伝説の力を此処に！ 時空突破・開闢双破斬ッ！」

「ぶげらっ！？」

次の瞬間、アバンスの放った一撃でぶっ飛ばされた僕……って、

「ちょっと待て、今のは永い時を経て禁止から制限に返り咲いたけど今度のゴールドレアに再録が決定してしかも再び禁止になるかもしれないと噂されているライ口等で大活躍中の某混沌戦士開闢使者先生（2011/12/08）の必殺技じゃんか！」

「長い上にメタの入り混じった発言ご苦労。因みに今の技は本人から教わった」

「え、カオス・ソルジャーさん本人に会ったの!？」

「流石は開闢の使者と呼ばれるだけはあったな。《光と闇が備わり最強に見える》とは上手い事を言う」

「……あれ、それってブ。ントさんじゃないかな……?」

鍛錬が終わり、シャワーで汗を流す。一汗かいたあとのお風呂は気持ちいいな。

「あゝ、生き返る……ん?」

何か違和感を感じたが、すぐに解けた。風呂場に置いてある鏡に顔を映す。

そこにはいつもの僕が……いや、確かに僕にそっくりだけど、違う人が映っていた。

髪の色は黒。アホ毛までまっ黒。そして目の色は、煌く金色。

原因はわからないけど、昔からずっとこうだ。鏡とかに映ると、映った顔の色が違う。

小さいころは気味悪がられて、いじめられかけた事もあったわけ。今ではもう慣れたし、特に問題もないから気にしてないけどね。

「水面、魔法の練習に付き合ってくれない？」

「お、お風呂出るから待ってて！」

神代 水面の観察結果：特に何事もない（？）、平和な日常であった。……と思う。

ダルクの場合

「はいよ、《ガガガシールド》1枚バラ売りで1050円だ」

「1050円か……もう少し安くはないか？」

ダルクはカードショップにて買い物をしていた。そして値切っていた。

「うーむ……まけにまけて900円といった所だな」

「ならそれでいい。それからこれも頼む」

「《マジシャンズ・サークル》か。そうだな……傷ありだ、安くしておくぜ。2枚で1500円だ」

帰り道、ダルクは猫を避けつつ歩いていた。

今歩いている道は、帰るには少々遠回りなルート。理由は特にない、散歩のようなものである。

「うわ……っと、今日はやけに猫が多いな。何かの前触れか？」

猫に気をとられていたダルクはふと、路地裏に目がとまった。

視線の先には……光を放つ、黒いカード。

「モンスター・エクシーズ？ 何故あんなところに……」

そう言つて路地裏に入るダルク。カードはちょうど、表の道からは見えにくい死角に落ちていた。

そして――

「……ッ!？」

ダルクの観察結果：少々厄介な事になりそうである。フラグ回収されるのはいつ頃だろうか……？

ヴィオ・アースバウンド（&九 紫苑）の場合

「ヴィオ、何故私の名前がついでのように書かれているのかしら？」

「それは大いなる蟹の味噌汁」

「あなた地縛神でしょう、神権限で修正してきなさいよ」

「だが断る」

ボクは今、右京先生から聞き出したチンピラ共の事を調べている。
手段はパソコン。ちょっと裏サイトに行けば、ヤクザや不良の情報
なんて意外と載ってるものだ。

「しかし、陸王と海王って結構有名な奴らよ？ 調べなくても情報
ならあるわよ」

「念のために、ネ。「あいつ」が関わってる訳だし、
水面が暴走して突っ込んで玉砕する可能性もある。人質とかにさ
れたら困るし」

あいつも厄介な所に行ったもんだ。水面が心配するっていうのにさ
あ……

「あつた、陸王と海王のページ。やっぱりロクな事してないみたいだ
ね」

ページを読み進めていくボク。兄弟揃って恐竜族デッキとは……

「ヴィオ、ここを見なさい」

紫苑に言われた通りに目をやると……博物館を襲撃予定イ!?

「《カオスエンド・ルーラー - 開闢と混沌の支配者 -》狙いつて書いてあるわね」

「こんなぶつ壊れカード作るとかコン。イエ……」

「この世界にコン。イは無いでしょ、あえて言うならIE2社ね」
インダストリアル・イリユージョン

更に下へと読み進めていく。……あれ?

「なんだ、見間違いか……いやいやいやいや!?!」

「どうしたのよヴィオ、あなたらしくもない」

「……紫苑、この前あげたカード持ってきて! 急いで! ハリー、ハリー、ハリー!」

「そんな急かさなくても……投げるわよ、ちゃんと受け止めなさい」

「ありがと! ……やっぱり見間違えじゃなかったか」

紫苑に投げ渡された、「19」のカード。

凍りついた洞窟を背景に、水色の恐竜が描かれている。この前の大会で手に入れたカードだ。

そして、パソコンの画面に映っている黒いカード。

暗い青色が渦を巻いているような背景。描かれているモンスターは

……

「2枚目の……ナンバーズ、か」

そっくり同じ、「19」が彫られた氷の恐竜だった。

ヴィオ・アースバウンド（&九 紫苑）の観察結果：衝撃の事実発
覚。まるで意味がわからんぞ！

Number 6:とある奴等の日常(?) (観察(後書き))

色々やっちゃった回でした。

自重とはどのような効果だ、いつ発動する？

では、また次回。

Number 7: 幸運? 縞々? 何のことです? (前書き)

デュエルは無しです。ごめんなさい。

てか2話連続でデュエル無いとはどういう……ことだ……?

Number 7: 幸運? 縞々? 何のことです?

今日は○月×日 曜日。陸王・海王の博物館襲撃とやらがある日だ。

「どうするの、水面?」

「やつらのいない間に、アジトに潜り込んで連れ帰る、かね」

「博物館を囷に使うとは……! 汚いなさすが水面きたない」

「わざわざ突っ込むよりも可能性が高いじゃん」

今の時刻は朝。そして博物館襲撃は夜。まだ時間は十分にある。

……必ず連れ戻してみせる。首洗って待ってる……!

「ところでダルクが行方不明らしいんだけど、ヴィオは何か知らない?」

「知らん、そんな事はボクの管轄外だ」

「そのネタはさすがにタブーだと思うんだ」

「……《スノーマンイーター》、1720円か。高い」

意気込んだはいいものの、夜まで暇なのでカードショップに行くことにした。

この店は先行発売された限定カードとかも扱ってるから、偶に覗きにきている。

欠点は値段の高さかな。珍しいのをわざわざ売ってる訳だし。

「よう、嬢ちゃん。それが欲しいのか？」

「嬢ちゃんって……」

店員さんらしき人が話しかけてきた。嬢ちゃんって……

「2回も言わなくていいだろうが」

「大事な事なので2度……いやいやいや、何故地の文を読まれたし」

恐ろしい店員さんだ……と、話が脱線してたな。

「おっさん、これ安くない？」

軽く仕返しをしておく事にする。

「おっさんって……まあいい。何かとセットならまけとくぜ」

「むう……どうしよう」

真面目に悩む。下手に使いすぎると今月厳しいし。

どうしようか……あ、探してたんだよねこれ！

「おっさん、これと一緒に買っよ」

「おっさんって……まあいい。そのカードとならそうだな、2枚合わせて2100円にしておくぜ」

「何故2度も言ったし……買うけど」

店を出た時には、既に夕方。帰ったらデッキ調整でもするかと考えながら歩く。

聞き捨てならない事を聞いたのはその時だった。

「アニキ達は、シャークに全部、罪をおっ被せる心算だ！」

中学生くらいの2人に、必死に話しているヤクザ風の男。いや、そんな事はどうでもいい。

こいつは今、「シャーク」と言った。そんな呼ばれ方をしてる人なんて1人しか知らない……！

「あのカードの所為だ！ あのカードを手に入れてからアニキ達、人が変わっちまって……」

「ちょっと待って。今の話、詳しく聞かせて！」

咄嗟に割り込む。こんな重要そうな話を聞き逃す訳にはいかない！

「だ、誰だよアンタ……」

「僕が誰かなんて、この際どうでもいい。それよりさっき言ったアニキ達って誰の事!？」

「り、陸王と海王って人だ。アニキ達はカード強盗の罪をシャークに……あ、おい! 何所に行くんだよ!？」

「決まってるじゃん、叩きつぶして止めるんだよ!」

あいつは表舞台から追放された。けど、仮にも決勝まで勝ち進んだ強さはある。

誰かが利用しようとする可能性もあったのに……完全に失念していた。罪を被せるなんて……!

「待ってくれよ! 俺もついていく!」

急いで家に戻ろうとした僕に、後ろから声がかかった。思わず振り返る。

声をかけたのは、なんというか、変わった髪型の少年。さっきの中学生2人のうちの1人だ。

「ついていくって……相手が相手だよ? 君じゃ危ないでしょ」

相手は仮にも不良グループ。負けたらただじゃ済まないかもしれない。い。

「確かに危険だけど……でも俺、嫌なんだよ!」

「……い、嫌なんだよってなにが嫌なの?」

「俺は、あいつに勝ちたいからって、嘘をついちゃった。」

シャークを不良から抜けさせる為だとか言って、約束を破って、ナンバーズを使っちゃった」

「遊馬……」

「俺はシャークの為だけじゃない、俺自身の為にも行くんだ！
このまま終わっちゃまうのは嫌なんだよ！」

……なんか気になる単語が混じってたけど、この子の覚悟はわかった。

これならちよつとくらい手伝ってもらっても構わない……よね？

「……君の名前は？」

「俺は九十九つくも 遊馬ゆうまだ！」

九十九、遊馬くん、ね。

「……決行は今夜。本気なら、夜にハートランド博物館に来て」

「珍しい事もあるもんだね。水面が会ったばかりの人間に援軍を頼むとは」

「なんか……あの子の目を見てたら、ね。てかあそこで断るとかK

「Y過ぎると思うんだ」

ヴィオを後ろに乗つけ、バイクで美術館へ走る。あ、あとバットとかエアガンとかも積んで。

「まあ、水面が決めたことなら止めはしないさ。」

それ「pppppppppppp」あれ、通信？紫苑
からだ」

「どうやら通信が入ったようだ。何かあったのかな……」

「あー、あー、マイクテスト……紫苑、どうかしたの？」

《2人共、短刀直入に言うわ。落ちて着いて聞きなさい。

陸王・海王が、デュエルギャングのグループに誘いをかけていたらしいわ》

「なんだってー!？」

「オンドウルラギツタンデイスカー!？」

《誘いに乗ったのは2グループ、総勢50人前後って所ね。因みに、今あなたたちのいるすぐ近くにいるわ》

うーん……このまま博物館まで行ったらまずいか。どうしよう!?

「アイアイサー、紫苑。水面、その集団が博物館に着く前に回り込むよ！」

「へ？　つまり……それって」

「その集団を無双する」

ハア？ 何言ってるのコイツ！？

「本気なの？ 2人で50人倒せつての？ 体力続くと思ってるの？ バカなの？ 死ぬの？」

「成せば成る、成さねば成らぬ！
それにボク1人で40人は固いね。水面はのんびりやってればいいさ」

……ほう？

「ヴィオ、言ったね？ どっちが多く仕留めるか賭けようじゃない」

「勝った方に10000ペリカで」

「その賭け乗った……あ、遊馬くんに連絡しなきゃ」

片手でD・ゲイザーを取り出し、さっき教えてもらった連絡先へ通信をつなぐ。

「遊馬くん、聞こえる？」

《もしもし……あ、夕方の！》

「ごめん、奴らの援軍が来るとかで遅くなる！
悪いとは思ってるんだけど、1人であいつらを相手できる？」

《ええー、俺1人で！？ そんな……》

「なるべく早く行くからお願い！ あいつを助けるためにも！」

必死に頼む。僕たちが行くまでは耐えてほしいから。

《……わかった！ 俺1人で……いや、俺たちで止めてみせる！》

「ありがとう。また後で」

向こうは遊馬くんにかせる。僕たちは……

「なんだてめえら…… 女子供じゃねえか。とつとと帰んな」

「おい待てよ、こいつら決闘盤付けてるぜ。レアカードとか持つてるかもしれねえ」

「ヒヤッハア、汚物は消毒だアー！」

……目の前の敵を叩きつぶす！

「ヴィオ、勝機はいくら？ 千に1つ？ 万に1つ？ 億？ 兆？
それとも京？」

「那由他だろうと不可思議だろうと、ボクには十分過ぎるね！」

N u m b e r 7 : 幸運？ 縞々？ 何のことです？（後書き）

次回、ついにあのデュエルが始まります。

……始まるのですが、文章を考えてたらなんだか流血しそうな感じに。

一応R15表記を追加しておいたのですが、残酷描写ありだけで事足りるでしょうか？

では、また次回。

Number 8: Desperado Chaos (前書き)

この話を読む前に 言っておくッ！

おれは今 信じられないものを ほんのちよっぴりだが 目撃した

い…いや… 目撃したというよりは まったく理解を 超えていた
のだが…

あ…ありのまま 今 見てきた事を話すぜ！

「おれは 久々にアクセス解析を試みたら
ユニーク数が 1000を超えていた」

な… 何を言っているのかは わかると思うが
おれは最初 何があったのか わからなかった…

頭がどうにかなりそうだった… 開闢の使者が安売りだとかホルア
クティOCG化だとか

そんなチャチなもんじゃあ 断じてねえ

もっとありがたいものの片鱗を 味わったぜ…

意識：マジでありがとうございます。

相変わらず低クオリティな感じですが、これからよろしく
お願いします。

Number 8 : Desperado Chaos

水面達が不良グループとデュエルを初めた一方、ハートランド美術館前にて。

4人の人物（正確には5人だが）が相対していた。

「……誰だ、てめえ」

今回の騒動の原因となった陸王・海王兄弟と、

「ここから先へは行かせない！」

それを止めようとする九十九遊馬。

「……なんだと？」

そう言う陸王の肩には、黄色く光る「61」。

「おめえ、こないだのツンツンボウズ……」

そして隣に立つ海王の腕には、緑色の「19」が光を放っていた。

『見ろ、遊馬』

「……！　ここから先に行きたければ、デュエルで俺を倒してからだ！」

視点：水面

「水面、これを渡しとくよ」

「ん？ なにこれ……モンスター・エクシーズ？」

ヴィオから投げ渡されたのは、黒い枠のカードが2枚。ただおかしいのは、イラストと効果欄がまっ白なこと。名前の欄には白い字で《No・Killer》と書かれている。

「……不良品？ それともアクセルシンクロ用？」

「んな訳あるか。ボクがちよこちよこ研究してた、ナンバーズ対策さ」

「対策？」

ナンバーズって確かに強力な効果を持つてるけど、対策なんてあるの？

「実はナンバーズの中にさ、戦闘耐性を持つてるのがあるらしいんだよね。」

えっと、”このカードは《No》と名のついたモンスター以外の戦闘では破壊されない”って」

「……なにそれ、初めて聞いたけど」

ナンバーズはナンバーズでなければ倒せないってか。じゃあ……

「この《No・Killer》っていうのは？」

「実はこの効果には抜け道があるんだよ。《No》って名前がついてれば、番号が無くても破壊できるでしょ？」

因みにそれは、持つてる人に合わせてイラストや効果が浮かび上がるタイプ。発現するのは暫くかかるし、預かっというて」

「なんで2枚あるのさ」

「備え有れば憂い無し。簡単に言えば予備」

「……まあわかったよ。さて、

《イビリチュア・ガストクラーク》で直接攻撃！ ミラージュ・ストローミング！」

「わ、我が神シ。ーよ、ここに生贄を捧ぐ！ わははは……ぐふっ！」

黒幕っぽいチンピラ

残りLP / 2100 ↓ 0

「そして《ラヴァルバル・チェイン》でそっちに攻撃！ カーディナル・アンデュレイション！」

「私の拳法殺しの肉の壁が……ひ、ひでぶっ！！」

世紀末な巨漢チンピラ
残りLP / 50 ↓ 0

僕たちは今、デュエルギャング50人相手にバトルロワイヤル中。
あ、いや、さすがに50人同時じゃなくて勝ちぬきみたいな形式だ
けどね。

「《潜航母艦エアロ・シャーク》の攻撃だ！ ビッグ・イーター！」
「プラーズマー！」

秘密結社に入ってそんなチンピラ
残りLP / 1300 ↓ 0

「続けてエアロ・シャークの効果発動！ エアー・トルピード！」
「お前たちは一体、何者……」
「ウボアー」

蘇ったラスボス風チンピラ
残りLP / 1700 ↓ 0

「ねえヴィオ」
「どうした水面」

僕はさつきからずっと疑問に思ってたことを口にする。

「何このカオス？」

「知らん！」

たった四文で会話を終え、再びデュエルを始める僕たちだった。

再び、ハートランド美術館前にて。

「デュエルで、だと？」

「何のつもりだ？」

そう問われ、1枚のカードを取り出し見せつける遊馬。
白と黄色を基調とした色合いの、騎士のようなモンスター。肩当てには「39」が描かれている。

「お前らが勝ったら、俺のナンバーズはくれてやる！」

「（ナンバーズを、賭けるだと……！？）」

遊馬の一言に動揺する、神代かみしろ凌牙りょうが。通称シャーク。
かつて全国大会決勝に進むも、対戦相手のデッキを盗み見たとして失格・追放された少年だ。

その後デュエルに弱いと評される遊馬に負けた事で落ちぶれ、今回のカード強盗に至る。

「けど俺が勝つたら、美術館へは手を出すな！」

「あれ、俺たちのカードと一緒にだぜ……」

「そうか、こいつはナンバーズって言うのか……」

お前と俺の2枚でこれだけの力があるんだ。あれを手に入れりゃ、俺たちや無敵だぜ」

自身のカードを取り出し、見比べる2人。

「さあこい！ 陸王、海王！」

「貴様、2対1で戦う気か！？」

信じられないといった顔で、遊馬を見る凌牙。2対1など、普通に考えれば圧倒的に不利だからだ。

しかも、普段からデュエルが弱いと評される遊馬。普通に考えれば自殺行為である。

「あつたりまえだ！」

お前にカード強盗なんて、絶対にさせない！」

「言ったハズだ、俺に二度と関わるなと」

「放っておける訳ないだろ！ こいつらは、お前を利用してるだけなんだぞ！」

「フン、そんな事は分かっているさ。けど、俺にはもうここしか居場所がないんだ」

自嘲気味に言う凌牙。が、遊馬はそれを否定する。

「違う！お前の居場所はこんなところじゃない！

俺は諦めねえ、今度こそ、お前にこいつらと手を切るって言わせてみせる！」

「押しつけがましいんだよ！　なんでそこまで……」

「仲間だからに決まってるんだろ！」

「……ッ！」

視点：水面

「オ・ノーレ！」

テラチンピラ

残りLP / 450 ↓ 0

「ふう、これで13人目……ッ！？」

「中々やるようですねえ」

13人目を倒し終えた僕に、誰かが突然殺気を叩きつけてきた。その方向にいたのは……紫色のぶ厚いコートを着た長髪の男。明らかに他の奴らとは雰囲気が違う。

「だ……誰？」

「御2人に誘われてきたものの、ここで足止めをされるとは……おっと、自己紹介がまだでしたね」

そう言うと、男はこっちに向かって一礼した。

「このグループのリーダーを務める、夜城やしろと申します。

博物館のカードにも興味はありますが……少しやりたい事が出来ました。お嬢さん、私とデュエルをしませんか？」

「デュエルって……まあ、どの道全員倒すつもりだったからいいけど」

「威勢のいい事ですねえ。では……」

夜城はおもむろに1枚のカードを取り出すと、高く掲げた。そして次の瞬間……

視点：ヴィオ

「なっ……ちょっと待って、あれは!？」

リーダーっぽい奴が何かカードを掲げた瞬間、水面と奴の周りを紫

の炎が取り囲んだ。

あれってまさか……！？

「出た！ 夜城さんの闇のデュエルだ！」

「あいつ、気の毒にな！ 女だからって容赦して貰えるかどうか……」

既に30人近く倒した取り巻きが、一斉に沸き立つ。

「闇のデュエルって……どういう事？」

「ああ、冥土の土産に教えてやるよ。

夜城さんの持つてるカードには不思議な力があってな、デュエル中のダメージが現実になるんだ」

そう言いつつ、各々が立ち上がる。……なんか鉄パイプとか釘バツトとか持つてる！？

「なんだ、リアルファイトすんの？」

「へっ、いくら強かったってこの数相手に勝てる奴はいねえ。さっさと降参した方が……」

「……なるへそ。ならボクだって」

懐から、魚の鰭をモチーフにした大型ナイフを取り出し、逆手で構える。刃は潰してある安全設計。

実は精霊関係である細工をしてある為、使いこなせば相当使える。

「舐めてんのかてめえ、んなチンケなナイフ1本で俺たちとやり合
うってのか？」

「醤油う事。さあこいよ、チンピラ共！ 武器なんて捨ててかかっ
てこい！」

「てめえなんざ怖かねえ！ 野郎、ぶっ潰してやらあ！」

「さあ、お喋りはそこまでだ」

「ナンバーズが懸かってるってのなら、話は別だ」

遊馬の持つナンバーズ、《No.39 希望皇ホープ》を見て目の
色を変える陸王・海王兄弟。

「2対1じゃねえ、3対1で戦ってやるぜ……」

「なあ、凌牙？」

海王に問いかけられ、目を伏せる凌牙。

「……」

「上等だ！ 2人でも3人でも、束になってかかってこい！」

その瞬間、凌牙が動いた。ゆつくりと、遊馬の方へ歩いていく。
そして――

「悪いな、俺はこいつにつくぜ」

視点：水面

「これって……？」

「人呼んで闇のデュエル。この中では、デュエルで発生したダメージが現実の衝撃になるのです」

「闇のデュエルだって？」

前世で見たアニメにはあつたけど、この世界にも……

「私の目的は……いや、趣味と言った方が正しいでしょうね。私の趣味は強者と戦い、徹底的に痛めつけて倒す事。」

この中なら更に緊迫感を、実際の痛みを伴って味わえるのですよ。このカードのお蔭でね」

さっきのカードを見せると同時に、紫色に光る刻印が夜城の手の甲に浮かびあがる。

ナンバーズ持ちだったのか……

「実際のダメージ……拒否権は？」

「ふん、ある訳無いでしょう。”穢れた優勝候補”の血縁、神代水面さん？」

……今、コイツ、なんて……！？

「お前……ッ！」

「こうでも言わないと全力を出してはくれそうにありませんからねえ？」

私は本気のあなたを叩きのめし、痛めつけたいのですから」

許せない。その呼び名を……

「……その呼び名を撤回しろ！」

あいつを、凌牙を侮辱するようなことを言うな！ 叩きつぶしてやる！」

「ふん、そうでなければ楽しめん。始めましょう！」

決闘盤、セツト」

「D・ゲイザー、セツト！」

覚悟はできてるね？ ……僕を、海の覇者たる鯨シャークの血族を怒らせたってことは！」

『AR・ヴィジョン、リンク完了』

「デュエルッ……」

水面 LP / 4000

VS

夜城 LP / 4000

「私の先行、ドロー！」

《クリッター》を攻撃表示で召喚。さあ、闇のデュエルの始まりです！」

Number 8: Desperado Chaos (後書き)

始まつただけでした。マジでサーセンorz

今日中に次話をあげられればいいんですが……それは大いなる蟹の味噌汁。

では、また次回。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7338y/>

鏡映しの決闘者

2011年12月25日15時47分発行